

平成 27 年度

事業概要

社会福祉法人 かながわ共同会

厚木精華園

平成27年度事業概要を取りまとめましたので、ご高覧いただければ幸いです。

厚木精華園は中高齢の知的障害者の入所支援施設として、平成6年の開所以来、人権擁護に基づく利用者本位の支援とともに、利用者一人ひとりが心豊かで充実した生活が送れるよう施設運営に取り組んでおります。

平成27年度は指定管理による施設運営の最終年度となり、更なる「支援・介護・看護」による統合的なケア等の充実を目指した検証の1年間となり、併せて3年に一度見直されている介護報酬等改正の年でもあり、福祉・介護職員の処遇改善等が示されました。

当園で生活等する利用者は、年度末現在335名（施設入所支援108名・生活介護155名・共同生活援助40名・厚木身体障害者等生活介護32名）であり、1年間の新規契約者は11名で、退所者は16名、うち5名死亡・特別養護老人ホーム入所2名・療養型病院転院3名・認知症グループホーム入居3名で、平均年齢は68歳となっています。利用者の高齢化や障害の重度化に寄り添う支援の充実のため、移乗用リフト・電動ベッド・スライディングボード等福祉機器の導入や高齢者支援セミナーのテーマを「高齢者を知る」とし年間12回開催し、360名の受講があり、高齢の知的障害者支援のノウハウの発信にも取り組みました。

地域連携では、年度末3月に地元11自治会、厚木市、NPO法人災害時避難行動支援ネットワークと協働による「5年めの3.11」をテーマに避難行動訓練を実施し、約200名の参加をいただき、地元自治会等との顔の見える関係づくりを今後とも構築していく必要性を再認識いたしました。

在宅の障害者支援の一環として、サービス等利用計画策定等の相談支援事業も職員を選任化し、昨年10月から厚木市の障害支援区分認定調査にも取り組んでおります。

平成28年度は、新たな指定管理による施設運営の10年がスタートし、第2ステージを迎えますので、今後ともご理解・ご協力をお願い申し上げます。

平成28年8月

園長 平嶺 一昭

目 次

社会福祉法人かながわ共同会基本理念等	1
I 概 況	
1 施設概況と運営方向	2
2 支援体系図	6
3 会議体制	7
4 年間行事実施状況	8
5 防災訓練計画実施状況	10
II 施設支援	
1 生活課の状況	11
2 委員会報告	14
3 医療・看護	22
4 給食業務の状況	29
5 苦情解決	31
III 地域支援	
1 短期入所事業 日中一時支援事業	32
2 相談支援	32
3 生活介護事業	33
4 厚木身体障害者等生活介護事業所『とまと』	35
5 ボランティア	36
6 福祉的就労	36
7 共同生活援助事業（グループホーム）	37
8 相談支援事業	39
IV 研 修	
1 研修報告	40
2 実習生・研修生受入れ	45
V 家族会活動	46
VI 後援会活動	47
VII その他	
1 平成27年度運営状況(実績)	48
2 厚木精華園の経営状況	49
3 地域サービス事業取組み状況	50

社会福祉法人かながわ共同会基本理念等

(1) 基本理念

社会福祉法人かながわ共同会は、誠実と信頼を旨とし、人権に根ざした利用者本位の考え方に立ち、多様なニーズに対応する支援体制の整備、サービスの量的、質的充実につとめ、利用者と地域社会の繁栄に貢献するとともに、社会的な法人としての価値を創造していきます。

(2) 経営の基本方向

- ①事業活動に対する基本的姿勢の確立
 - ア 公共的、公益的取り組みの推進
 - イ 組織的運営の確立
 - ウ 財政基盤の安定に視点を置いた経営の推進
 - エ リスクマネジメントの充実強化
- ②県立民営（指定管理者）施設としての特徴の発揮
 - ア 先駆性、迅速性及び柔軟性の発揮
 - イ 四施設の独自性の発揮と有機的連携の推進
- ③障害者総合支援法への積極的な取り組み
 - ア 新事業体系への円滑な移行
 - イ 地域生活移行の計画的推進
 - ウ 就労支援の強化
 - エ 地域のニーズに根ざした新規事業の積極的取り組み
- ④利用者への更なる支援の充実強化
 - ア 人権の尊重
 - イ サービスの質の向上
 - ウ QOLの推進
 - エ 社会参加の積極的推進
 - オ 医療支援の共有化の推進
- ⑤地域社会とともに歩む福祉づくり
 - ア 地域との共生の推進
 - イ 社会的ルールの遵守
 - ウ 説明責任の徹底
 - エ 利害関係者との適切な関係の保持
 - オ 市町村との連携強化
- ⑥積極的・総合的な人づくりの推進
 - ア 総合的研修システムの確立と実施
 - イ 適切な人事・労務管理の実践
- ⑦その他
 - ア 新たな福祉ニーズの開発及び研究

I 概況

1 施設概況と運営方向

厚木精華園は中高齢の知的障害者が、心豊かで充実した生活を施設の内外で送れるようにとの目的で、神奈川県により平成6年7月1日に設置されました。

厚木精華園は、知的に障害のある人の基本的人権（自由権、平等権、社会権、請求権、参政権）を守り、利用者中心の支援に努め、自己選択・自己決定を尊重し、障害のない人と同じような普通の暮らしができる施設としてノーマライゼーションを目指します。

(1) 基本理念—地域福祉発展のために

厚木精華園は、中高齢の知的障害者が、心豊かで充実した生活が送れるように支援します。この目的を施設の内外で達成するため、地域福祉や、在宅サービスに積極的に取り組み、支援システムの確立のため、調査・研究を行うなど、県下のモデル施設を目指します。

(2) 経営方針—利用者の立場にたって

厚木精華園は、中高齢の知的障害者が、心豊かで充実した生活が送れるように個別ニーズを尊重し、利用者主体の施設運営に努めます。また、広く関係者の理解と協力のもとに、施設生活の質（QOL）の向上を図り、その方法を開発し、弾力的な運営に努めます。

(3) 定員

ア 指定管理事業

施設入所支援	110名
短期入所	2名
生活介護	140名

イ 自主事業

共同生活援助（11ホーム）	48名
厚木身体障害者等生活介護	20名
日中一時支援	概ね2名
指定相談事業支援	

(4) 敷地および建物

土地・建物 敷地面積 14,504 m²
建物面積 8,065 m²

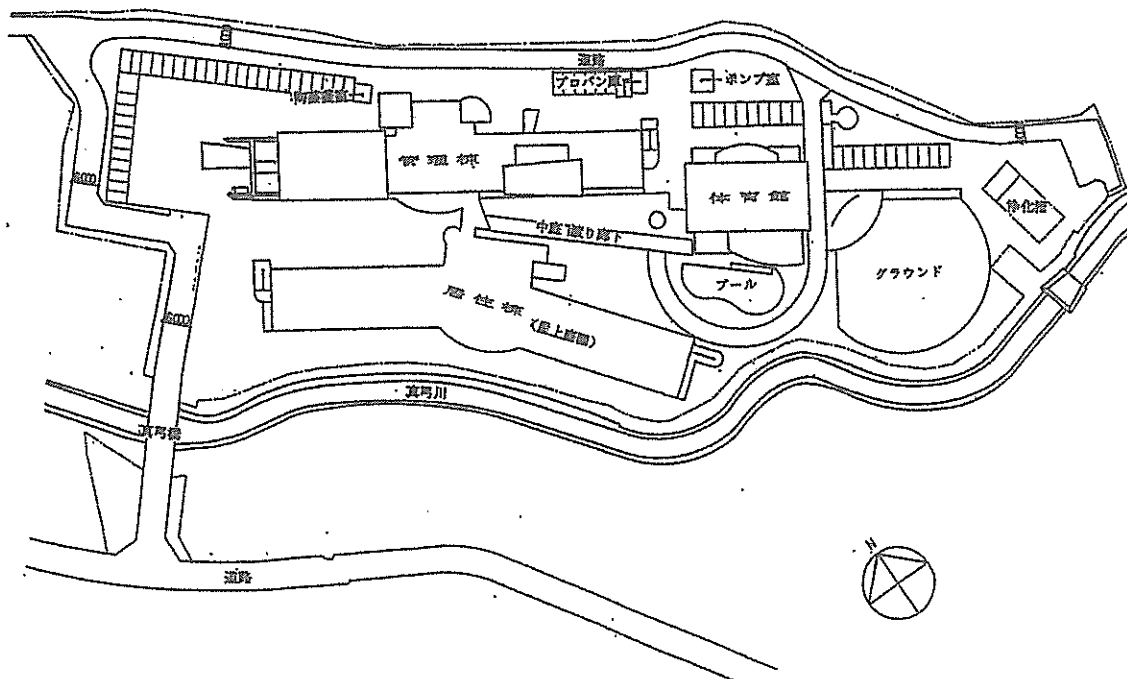
管理棟 3階 作業活動室、ゲストハウス
2階 事務所、会議室、整髪室、介助浴室、プレイルーム
研修室、診療所
1階 生活3課
地階 調理室、機械室

居住棟 2階 生活2課
1階 生活1課

体育館 バレーコート一面 (300席)

屋外 グラウンド、プール

(5) 配置図



(6) 厚木精華園重点目標

ア 施設運営、経営の強化を図る。

- ・ 利用者の身体的特性に合わせた課移動と新規入所者11名を受入れました。
- ・ 高齢者支援セミナーを毎月開催し51団体の登録、360名に参加、見学は、県内外より28団体、366名の見学者を受入れました。
- ・ 予算執行管理と遂行に努め、LED交換、脱衣場床張替え等の環境整備の充実に努めました。

イ 利用者支援の充実を図る。

- ・ 介護技術研修を3回実施しおむつのあて方マニュアルを作成、福祉機器導入として移乗用リフトを2台、スライディングボード等の試行に努め福祉新聞に福祉機器シリーズとして掲載されました。
- ・ 医療的ケアに継続的に取組み認定書取得者77名、感染症、ノロウイルス感染時の対応訓練を実施しました。
- ・ 園内余暇活動の充実として福祉ネイル、ファミリーマート訪問販売、喫茶おはなしを毎月開催しました。

ウ 権利擁護、虐待防止への取組み。

- ・ 人権委員会、利用者自治会、虐待防止委員会、オンブズマン相談会を毎月実施しました。
- ・ 家族向けアンケート、職員の自己チェックリスト、来園者向け簡易アンケートに取組みました。
- ・ 法人後見組織設置準備委員会、成年後見推進プロジェクトを立ち上げ成年後見制度の在り方の模索に取組みました。

オ 地域との積極的な連携を図る。

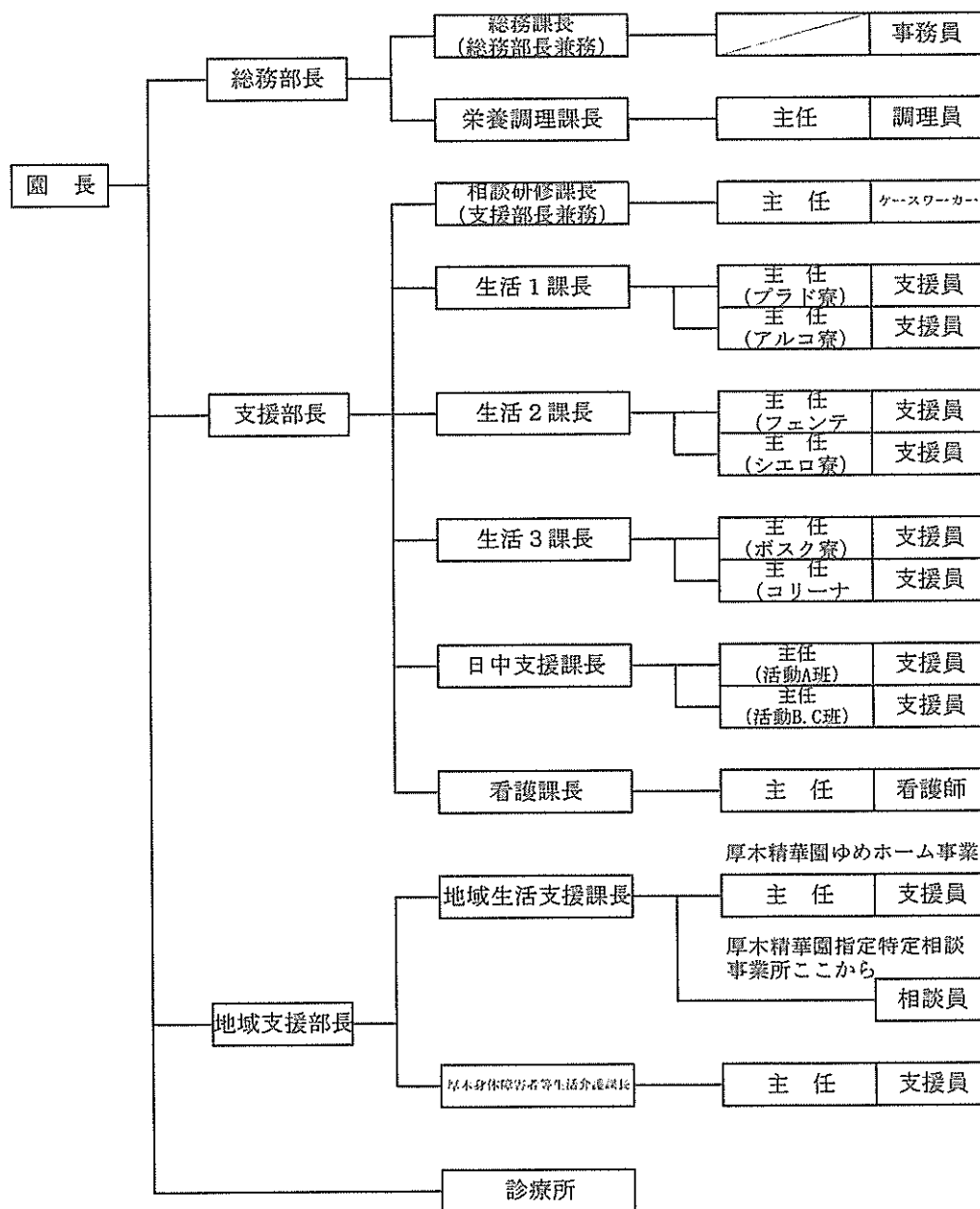
- ・ 障害者理解や地域貢献を目的に各事業を積極的に行いました。
- ・ 地元自治会、行政、NPO災害時避難行動支援ネットと協働し要援護者福祉避難所受入れ及び避難行動訓練を「5年めの3.11」として実施し約200名参加しての訓練を行いました。
- ・ 厚木市障害者相談支援等事業を受託し地域包括支援センターと協働したアウトリーチ等の取組みを実施しました。

カ 自主事業の安定的経営と機能強化を図る。

- ・ 新規利用者の開拓と利用促進では、グループホームは新規で2名の入居、厚木身体障害者等生活介護事業所では、新たに受注作業を開拓し作業工賃の支給アップに努め新たに2名の新規利用開始に繋げました。
- ・ 相談支援事業所では、サービス等利用計画を73件作成し新たに障害支援区分の認定調査を開始しました。
- ・ 小規模多機能居宅事業所プロジェクトを立ち上げ、他事業所の見学や認知症グループホームの見学及び研修会を実施しました。

(7) 組織及び職員配置 (平成28年3月31日現在)

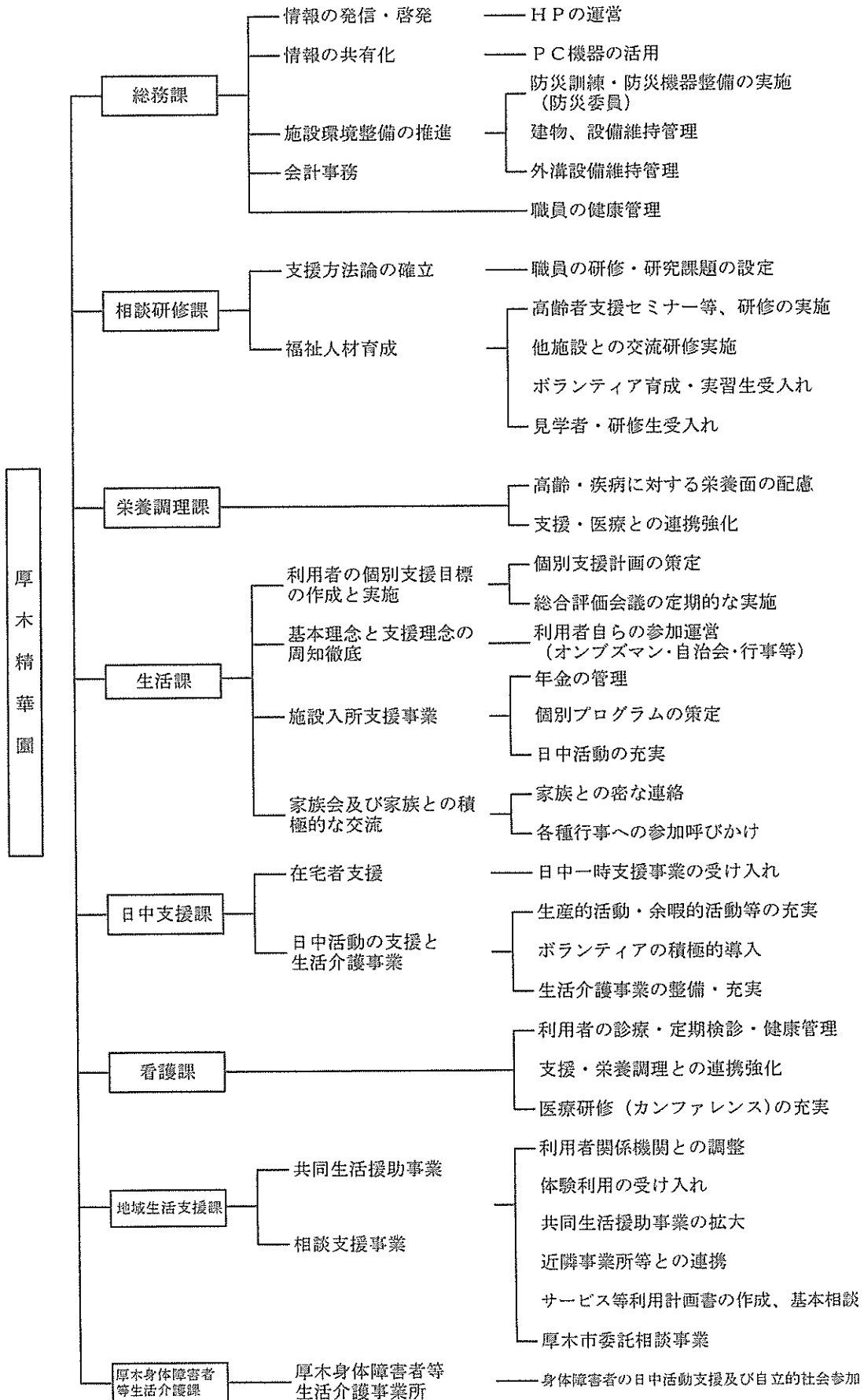
組織図



職員数

		常勤	臨任	非常勤 パート	福祉的 就労	計
総務部	園長・部長	2				2
	総務課	2	1	1		4
	栄養・調理課	4		11	1	16
支援部	部長	1				1
	相談研修課	1		1		2
	生活1課	19	1	6		26
	生活2課	18	1	6		25
	生活3課	13		4		17
	日中支援課	7		14		21
	看護課	3	1	2		6
地域支援部	部長	1				1
	地域生活支援課	7		51		58
	厚身体障害者等生活介護課	4		7		11
計		82	4	103	1	190

2 支援体系図



3 会議体制

会議名	協議内容	構成員	開催
全体職員会議	全職員に関わる重要事項 セクション間の調整事項 園内外の情報の確認	全職員	6回/年
運営会議	園運営上の重要事項	園長 部長 課長	2回/月
経営会議	園経営上の重要事項	園長 部長 課長 課員	4回/年
主任会議	利用者支援に関する調整事項	担当部長 担当課長 主任	1回/月
課会議	課運営に関わる事項	課長 主任 課員	1回/月
グループリーダー会議	利用者支援、アセスメントに関する事項	主任 グループリーダー 課員	1回/月
モニタリング会議	個別支援計画の見直し	課長 主任 課員	1回/月
連絡会	利用者の状況、日課、外出等の確認・伝達、来客、職員その他の日程等の確認	園長 部長 課長 課員	毎日
サービス利用調整会議	入退所に関する事	園長 部長 課長 課員	1回/月
利用者自治会	利用者の自治に関する事 納涼居酒屋に関する事	利用者 担当職員	1回/月
健康委員会	利用者の健康に関する事	看護 調理 支援員	1回/月
医療安全委員会	医療的ケアに関する事	園長 看護課長 支援員	1回/月
衛生委員会	職員の健康管理に関する事	総務部長 衛生管理者 担当職員	1回/月
食事委員会	利用者の食事に関する事 食事に関する利用者支援全般に関する事	栄養調理課長 看護 支援員	5回/年
防災委員会	防災に関する事	防火管理者 担当職員	1回/月
人権委員会	利用者の人権擁護に関する事	担当課長 担当職員	1回/月
情報ネットワーク委員会	パソコン管理等に関する事	総務部長 担当課長 担当職員	6回/年
広報委員会	ベルデカーレの編集に関する事	担当課長 担当職員	7回/年
リスクマネジメント委員会	インシデントレポートの集計・分析 事故報告に関する事	担当課長 看護 調理 支援員	1回/月
研修委員会	園内の研修に関する事 法人研修との連携	担当主任 担当職員	11回/月(8月を除く)
次年度体制プロジェクト	再指定に関する事	園長 担当部長 担当課長 担当職員	1回/月
法人後見組織設置準備委員会	成年後見に関する事	園長 担当部長 担当課長 担当職員	1回/月

*ラ・フェスタ委員会等各種行事委員会あり

*法人規模の委員会を別開催

4 年間行事実施状況

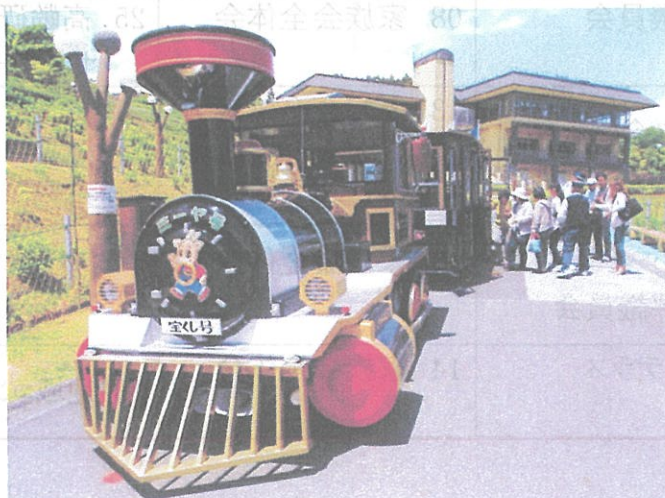
月	主要事業・行事	家族会・後援会	地域支援・園外行事
4	01 対面式 03 新採用研修	12 家族会全体会	12 厚木市民吹奏楽団演奏会
5	07 法人評議員会 08 理事会	10 家族会総会 後援会総会	09 ふれあいフェスティバル 21 地域交流レクリエーションDAY 26 A ネット総会
6	01 デザートテラス	08 家族会親睦日帰り旅行	24 高齢研合同高齢者支援セミナー
7	29 夏まつり 2015	12 家族会全体会	
8		02 家族会課別懇談会 (お盆法要実施)	
9	02 長寿の祝い 11 オープンセミナー	27 美化清掃・バザー準備 家族会課別懇談会	12 手作り製品展示・即売会
10	10 ラ・フェスタ	10 ラ・フェスタバザー参加 (家族会・後援会)	15 地域交流レクリエーションDAY
11	11 法人評議員会 13 理事会	08 家族会全体会	25 高齢研合同高齢者支援セミナー
12	09 クリスマス会	13 家族会全体会 20 人権フォーラム参加	
1	05 仕事始め 19 地区別評議員会	17 家族会全体会	
2	29 デザートテラス	14 家族会全体会	18 地域コンサート

3	02 法人評議員会	13 春の宴	05 Aネットセミナー 11 ボランティア懇談会
	05 理事会	17 後援会 役員会	
	31 退職辞令交付		

*防災訓練は、別項報告参照



(会対外・全対象)



5 防災訓練計画実施状況

大規模な地震や火災が発生した場合を想定すると、人的被害並びに建物設備等の物的被害が予想されます。その予防と被害を拡大させないために、年に12回の避難訓練を実施しました。また消火訓練、通報訓練、地震訓練、非常食の炊き出し等も実施しました。厚木市とは「災害時における障害者の緊急受入」に関する協定書を締結し、災害時には市内の在宅障害児者を受け入れる体制を整えています。厚木市・NPO法人災害時避難行動支援ネットワーク・真弓自治会とともに「5年目の3.11」避難行動訓練を行いました。、災害時にはお互いに協力し合えるように連携を取り合うため継続した訓練をおこなっていきたいと考えています。

防災訓練実績

4月 1日	火	13時00	新採用・転入職員への消防設備等の説明	総務課
4月17日	金	13時40	通報訓練(消防署・模擬、園内放送)、避難訓練	生活1課
5月22日	金	13時40	通報訓練(消防署・模擬、園内放送)、避難訓練	生活2課
5月22日	金	14時00	グループホーム避難訓練(ゆり・あやめ)	地域生活支援課
6月29日	月	10時00 10時30 12時00	通報訓練(消防署・模擬、園内放送) 通報訓練(アルソック安否確認メール) 炊き出し訓練	栄養調理課 総務課
6月29日	月	14時00	グループホーム避難訓練(すみれ・いずみ)	地域生活支援課
7月31日	金	13時40	通報訓練(消防署・模擬、園内放送)、 避難訓練(夜間想定・・・寮を特定し実際に避難する)	生活3課
8月31日	月	13時40	通報訓練(消防署・模擬、園内放送) 避難訓練・散水栓使用訓練(消防署立会い)	日中支援課
8月31日	月	14時00	グループホーム避難訓練(ひのき)	地域生活支援課
9月30日	水	13時40	地震・火災総合訓練(かながわシェイクアウト) 地震対策本部訓練 アルソックシステムによる通報訓練	総務課
10月26日	月	13時40	通報訓練(消防署、園内放送)・・・消防署に通報する、 避難訓練(夜間想定・・・寮を特定し実際に避難する)	生活1課
10月26日	月	14時00	グループホーム避難訓練(めい)	地域生活支援課
11月30日	月	13時40	通報訓練(消防署・模擬、園内放送) 避難訓練(夜間想定・・・寮を特定し実際に避難する) 避難スロープ降下訓練	生活2課
12月10日	火	10時00	法人総合防災訓練	栄養調理課 総務課
1月21日	木	10時00	消火訓練(水消火器)	生活3課
1月21日	木	14時00	グループホーム避難訓練(はな・あおぞら)	地域生活支援課
2月19日	金	13時40	通報訓練(消防署・模擬、園内放送)、避難訓練	日中支援課
3月6日	日	9時00	「5年目の3.11」災害時避難行動訓練	地域生活支援課
3月29日	火	14時00	グループホーム避難訓練(さくら・ゆめ)	地域生活支援課
3月29日	火	13時40	通報訓練(アルソック安否確認メール)	総務課

II 施設支援

1. 生活課の状況

1 課利用者状況

(単位：人) 平成28年3月31日現在

性別		女性38名 (短期利用者および日中一時利用者は除く)							
年齢階層	60歳未満	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	計	
	5	7	8	8	6	4	0	38	
障害程度区分	区分3		区分4		区分5		区分6		
	0		4		10		24		
身体状況	視聴覚	肢体等	吸引	胃ろう・経鼻	補装具	常時車椅子	外出車椅子	歩行器	
	5	12	4	2	使用者	22	6	1	

2 課利用者状況

(単位：人) 平成28年3月31日現在

性別		男性37名 (短期利用者および日中一時利用者は除く)							
年齢階層	60歳未満	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	計	
	11	1	10	5	6	3	1	37	
障害程度区分	区分3		区分4		区分5		区分6		
	1		5		9		22		
身体状況	視聴覚	肢体等	吸引	胃ろう・経鼻	補装具	常時車椅子	保護帽	歩行器	
	4	18	1	1	使用者	16	7	6	

3 課利用者状況

(単位：人) 平成28年3月31日現在

性別		男性28名 (短期利用者および日中一時利用者は除く)							
年齢階層	60歳未満	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	計	
	9	4	6	9	2	1	1	32	
障害程度区分	区分3		区分4		区分5		区分6		
	5		8		11		8		
身体状況	肢体等	その他	吸引	胃ろう・経鼻	補装具	常時車椅子	保護帽	歩行器	
	4	2	0	0	使用者	3	4	0	

生活課は3課体制で支援しています。1課が女性、2課・3課が男性で構成されています。利用者数は3月末現在、女性38名、男性69名となっています。

平成27年度は、入退院を繰り返す方や身体機能の低下（特に拘縮や褥瘡等）が多くみられました。また、知的障害に加え認知症的症状が進行する方も増えました。平成27年度は男性3名がご逝去されました。

利用者全体の介護内容が多様化・増加している中で、人生のラストステージを迎えようとしている利用者への個別支援をどう実施していくかが引き続き大きな課題になっています。

医療的ケアについては、法制上、施設支援の限界があり、療養型病床群等への移行支援ニーズも高まっています。

(1) 食事

毎日の食事では、利用者の嗜好を尊重した「個別対応食」や、嚥下困難な方への配慮（普通食、カット食、とろみ食、口どけ食等）を生活課、看護課、調理課との連携で進めてきました。また、食事支援を必要とされる方が年々増加しているため、より安全な環境で食事提供できるよう、定期的に食事席の見直しや介助方法の見直し等を行いました。

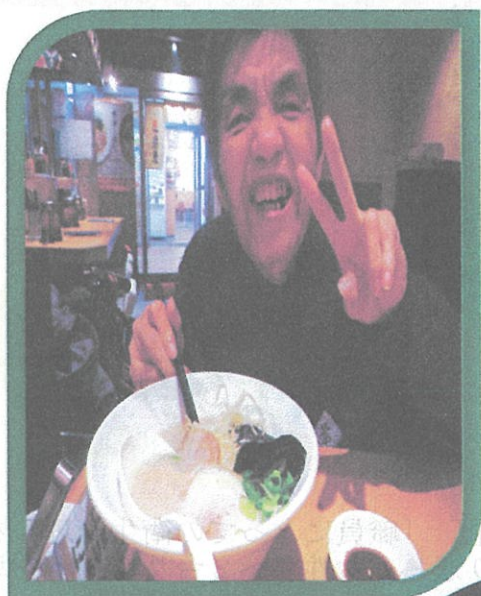
(2) 入浴

高齢化による急激な体調の変化、介護度、障害特性、交友関係などを考慮した上でグループ分けを行い、個々に最適と考えられる浴室(一般浴室、リフター付浴室、機械浴室)での入浴を実施しました。生活1課では午前と午後の2回実施、生活2課では午後2箇所2回の実施、生活3課では午後1回、夕食後1回の2回実施しています。利用者の重度化、高齢化に伴い機械浴での入浴者が増加傾向にあり、生活介護サービスの枠内で入浴が実施できる体制づくりを図ってきました。より「安全」で「快適」な入浴時間を提供できるよう、利用者数、職員数、回数等が適正かどうかを常に検討しました。

(3) 余暇・外出

個別のニーズに沿って支援を進めました。美容サービス(ネイル)、介護マッサージ等の定期利用の他、喫茶プティ・デザートテラス・ファミリーマーケット販売会・ヨーカ堂販売会・映画会・音楽会・カラオケ・レクリエーション等も余暇支援として取り組みました。

介護度の上昇、通院回数の増加等により外出の機会は減少しましたが、可能な限り個別での外部事業所の利用、職員等によるガイドヘルパー制度の活用により、その機会を最大限確保するよう努めました。また職員同行の外出は、昼食外出・買い物外出が大部分を占めましたが、本人の気持ちを汲み家族と調整を諮り家庭訪問等も実施しました。好天の日には短時間でもドライブや園近辺の散歩等ができるよう日課を工夫しました。さらに外出できない方には、外食気分を感じていただけるよう出前をとり、ゲストハウス等を利用して日常と雰囲気を変えての食事場面も提供しました。利用者が楽しんで頂ける機会を少しでも多く確保できるよう努めました。



(4) 支援スキル向上への取り組み

理学療法士の指導の下、利用者の身体機能維持に必要な運動プログラムを学び、拘縮予防や介護予防に繋がっています。また支援方法や介助方法が適切に行えているかを確認し、より安全で安心感を感じていただけるよう努めました。また、安定したサービスの提供が出来る様に支援方法や介助方法のマニュアルを作成し、情報共有と統一した支援を行いました。



(5) 福祉機器導入

介護度の上昇に伴い、「利用者にとっての安心安全」「職員にとっての衛生管理」を両立させるべく、移動リフター等の試験的利用を繰り返し、女性課へ2台リフターを導入しました。



2 委員会報告

(1) 人権委員会

主な活動内容

月	主な内容	相談会参加者
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・オンブズマン相談会 ・今年度の取り組み事項の確認。 	16名
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・オンブズマン相談会 ・人権委員会主催研修の検討 ・6月、7月人権目標の設定 	13名
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・オンブズマン相談会 ・4月、5月人権目標の各課報告 	13名
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・オンブズマン相談会 ・8月、9月人権目標の設定 ・身体拘束実態確認 ・ホームしゃべり場(往訪)(来訪) 	15名
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・6月、7月人権目標の各課報告 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・オンブズマン相談会 ・10月、11月人権目標の設定 ・ホームしゃべり場(来訪) 	16名
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・オンブズマン相談会(ラフェスタ時に相談ブース開設) ・8月、9月人権目標の各課報告 	15名
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・オンブズマン相談会 ・12月、1月人権目標の設定 ・神奈川県知的障害施設連合会アンケート(利用者対象)実施集計 ・詳細アンケート(家族、後見人対象)実施 ・人権自己チェックリスト(職員対象)実施集計 ・ホームしゃべり場(来訪) 	6名
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・10月、11月人権目標の各課報告 	
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・1/29 特別研修「利用者に携わる職員のためのストレスケア」開催 ・オンブズマン相談会 ・2月、3月人権目標の設定 ・簡易アンケート試行開始 	9名
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・12月、1月人権目標の各課報告 ・詳細アンケート(家族、後見人対象)集計 	12名
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・オンブズマン相談会 ・4月、5月人権目標の設定 ・今年度評価および来年度への課題検討 ・ホームしゃべり場(往訪)(来訪) 	16名

(2) 広報委員会

活動内容：「ベルデカーレ第76号～第79号」の発行



ア ベルデカーレの発行

「利用者や家族の皆さんが楽しめる内容」を目指して編集・発行に取り組みました。担当委員で掲載する記事や写真を集め、紙面のレイアウト内容等々を検討して、印刷は外部業者に依頼しました。

5月発行76号では、園長のご挨拶をはじめ、各部署からのご挨拶。そして「新人・異動職員」の紹介。併せて新体制の紹介をしました。

8月発行77号では各課で実施した日帰り旅行や1泊旅行を紹介させていただきました。また、園内の行事を紹介させていただき、利用者の楽しみや余暇、地域との交流場面を取り上げました。

外部への情報発信として、研究活動援助事業で取組んだ2つの研究報告や、高齢者支援のスキルアップのために取組んでいる研修報告を紹介しました。



11月発行78号では、還暦や古希などを祝う「長寿の祝い」の紹介、今年も大勢の方々のお祝いが出来ました。また、園最大規模の行事である「ラ・フェスタ」の特集。本年のサブタイトルは「STILL DOING IT～今もそれを続けている～」で職員バンドに新たなメンバーが参加したことや、バリエーション豊富な模擬店の紹介、ラ・フェスタ用に揃えたTシャツを着ての委員の紹介等々を載せました。

またオープンセミナーの研修報告や、園内での新しい取組みの紹介を行いました。



2月発行79号では、「クリスマス会」や「新年会」を取り上げ、みなさんのたくさんの笑顔を集めました。また、体験交流セミナー発表報告やノロウイルス対応訓練の様子、高齢者支援セミナー年間実施内容を報告させていただきました。

最終ページには3月6日に実施する「5年目の3.11」のポスターを載せ、参加の呼びかけを行いました。

(3) 情報ネットワーク委員会

活動内容

ア レインボーネットの運用管理

平成22年10月から運用が開始された「レインボーネット（かながわ共同会グループウエアシステム）」の新規運用システムについて使用方法などの説明やレクチャーなどを行いました。お知らせ文書はレインボーネットを利用し園内の情報伝達に役立てました。

イ 園内パソコンネットワークの運用管理

総務課の担当者とともにパソコンの節電・保安のため、夜間のシャットダウンを励行するように周知しました。また、園内パソコン共有ネットワークにある増大なデータについて、フォルダ整理のルールを検討、提示しました。

ウ 法人情報ネットワーク委員会との連携

法人会議に参加後、園内委員会にて報告し、法人としての取り組み事項の確認と、法人からの周知事項の徹底を図りました。また、レインボーネットの普及活動を行い、書式統一並びに迅速な情報共有に努めました。

エ 園内パソコン研修の企画・実施

オープンオフィスの使い方について、園内職員を講師とし研修を実施しました。また、レインボーネットについての研修も実施し、日々の課題や確認事項等を積極的に業者へ発信しました。

(4) 利用者自治会

利用者の自主性、主体性を重視するため、各課利用者自治会を毎月実施し、各課から立候補された役員が全体会にて意見交換する形で実施しました。職員は本人活動のサポート役として、いかに本人の声を聞き、反映させ、活動に繋げるかを重点目標として自治会活動を支えてきました。

利用者自治会を支援するため、利用者自治会委員会を隔月(偶数月)開催しました。

前年度までの取り組みの発展と、利用者自治会役員の活躍の場を広げられたことで、充実した自治会活動が実施できました。

主な活動内容

月	主な活動内容
4月	・利用者役員候補選出 ・年間計画確認 ・誕生会・利用者ニーズ調査
5月	・利用者役員選出 ・誕生会・利用者ニーズ調査
6月	・イトーヨーカ堂訪問販売実施 ・年間自治会費徴収 ・第三者委員、利用者自治会との話し合い ・誕生会・利用者ニーズ調査
7月	・誕生会・利用者ニーズ調査
8月	・ラ・フェスタ出店内容検討 ・誕生会・利用者ニーズ調査
9月	・誕生会・利用者ニーズ調査
10月	・「ラ・フェスタ」にて自治会として写真館・ジュース販売出店 ・利用者自治会規約(ルビ追加版)作成 ・誕生会・利用者ニーズ調査
11月	・誕生会・利用者ニーズ調査
12月	・園庭、及び園内のクリスマスツリーの飾りつけ ・イトーヨーカ堂訪問販売実施 ・誕生会・利用者ニーズ調査
1月	・誕生会・利用者ニーズ調査
2月	・地域コンサート(日中支援課共催)実施 ・誕生会・利用者ニーズ調査 ・年度総括
3月	・誕生会・利用者ニーズ調査

(5) 健康委員会/医療安全委員会

- ア 健康委員会：利用者の健康管理に関することについて、取り組みました。
健康委員は各課1-2名。
- イ 医療安全委員は医療的ケアの安全管理に関することについて、取り組みました。
医療安全委員は生活課と日中支援課 各課1-2名。

主な活動内容

月	健康委員会	医療安全委員会
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会の主旨の確認と今後の取り組みについて ・年間スケジュールの確認 ・各課利用者急変時対応訓練実施 ・排便の表記について確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療安全委員会の発足について ・H26年度医療ヒヤリについて報告 ・医療レクチャー：手技見直し予定確認・調整
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・4月度利用者急変時対応訓練の報告と検証 ・各課利用者急変時対応訓練実施 ・4月度取り組み：気温と衣類調整について 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療ヒヤリ4月なし ・園内手技確認研修実施状況報告。 ・新取得者の研修に向けての情報提供
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・5月度利用者急変時対応訓練の報告と検証 ・各課利用者急変時対応訓練実施 ・5月度取り組み：フットケア（白癬予防）について 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療ヒヤリ5月分検証 ・医療レクチャー：2課 手洗い＋吸引の演習実施 ・痰の吸引の外部研修機関受験結果報告
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・6月度利用者急変時対応訓練の報告と検証 ・各課利用者急変時対応訓練実施 ・6月度取り組み：口腔ケアについて 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療ヒヤリ6月分検証 ・園内手技確認研修実施状況報告。 ・医療的ケア：喀痰吸引等の実地研修進捗状況
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・7月度利用者急変時対応訓練も報告と検証 ・7月度取り組み：熱中症予防、冷房対策 ・各課利用者急変時対応訓練実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療ヒヤリ7月分検証 ・園内手技確認研修実施状況報告 ・医療的ケア：喀痰吸引等の実地研修進捗状況
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・8月度利用者急変時対応訓練の報告と検証 ・各課利用者急変時対応訓練実施 ・8月度取り組み：熱中症予防、冷房対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療ヒヤリ8月分検証 ・医療レクチャー：日中支援課 経管栄養の演習
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・9月度利用者急変時対応訓練の報告と検証 ・感染症の講義（堀野医師）と予防対策 ・各課利用者急変時対応訓練実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療ヒヤリ9月分なし ・新規利用者医療的ケア追加研修報告
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・10月度ノロ発生時対応訓練の報告と検証 ・必要物品の確認・予防対策 ・各課利用者急変時対応訓練実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療ヒヤリ10月分検証 ・医療レクチャー：2課 手洗い＋吸引の演習実施 ・感染症予防の講義実施
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・11月度利用者急変時対応訓練の報告と検証 ・感染予防対策：物品等の確認 ・各課利用者急変時対応訓練実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療ヒヤリ11月分検証 ・医療レクチャー：日中支援課 手洗い＋吸引の演習を実施
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・12月度利用者急変時対応訓練の報告と検証 ・各課利用者急変時対応訓練実施 ・感染症予防対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療ヒヤリ12月分検証 ・医療レクチャー：1課 小テスト実施
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・1月度利用者急変時対応訓練の報告と検証 ・次年度の利用者急変時対応訓練の取り組み ・各課利用者急変時対応訓練実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療ヒヤリ1月分検証 ・実地研修修了報告 ・次年度医療的ケア研修スケジュール案確認
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・2月、3月度利用者急変時対応訓練の報告と検証 ・次年度向けの取り組みの確認 ・フットケア（白癬予防） ・各課利用者急変時対応訓練実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療ヒヤリ2月分検証 ・医療レクチャー：2課・日中小テスト実施 3課手洗い ・今年度のまとめについて ・医療計画書の更新

(6) 衛生委員会

- ア 衛生委員会設置要領第2条に則り、委員を指名 任期は1年
- イ 職員の健康障害を防止する対策に取り組みました。
- ウ 職員の健康保持増進を図りました。
- エ 労働災害の原因及び再発防止対策を行いました。

主な活動内容

月	活動内容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生委員会の役割について ・27年度年間予定について ・平成26年度労災状況について
5	<ul style="list-style-type: none"> ・5/29交通安全研修 ・27年度年間予定の担当及び内容の確認 ・26年度年休取得・時間外勤務状況について ・健康診断について
6	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全研修報告 ・熱中症予防に向けて ・研修他進捗状況の確認
7	<ul style="list-style-type: none"> ・7/24腰痛予防研修 ・職員健康診断結果について ・環境調査について ・研修他進捗状況の確認
8	<ul style="list-style-type: none"> ・職員健康診断結果について (再) ・職場環境調査中間報告 ・研修他進捗状況の確認
9	<ul style="list-style-type: none"> ・労災発生状況中間報告 ・メンタルヘルス研修報告 ・職場環境調査経過報告
10	<ul style="list-style-type: none"> ・電球確認について ・職場環境調査について ・研修他進捗状況の確認
11	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策について ・4月から9月時間外について ・研修他進捗状況の確認
12	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活を学ぶ ・研修他進捗状況の確認
1	<ul style="list-style-type: none"> ・職員健康診断結果について ・次世代育成プランについて ・研修他進捗状況の確認
2	<ul style="list-style-type: none"> ・メンタルヘルス研修報告 ・健康相談について ・次年度研修計画について
3	<ul style="list-style-type: none"> ・職員健康相談について ・次年度研修計画 (案) について ・今年度のまとめ

(7) リスクマネジメント委員会

ア 活動内容

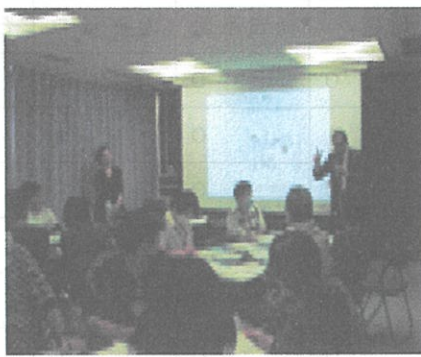
(ア) ワーニングレポート（ひやりはつと報告）

毎委員前に各課で提出されたひやりはつと報告を課内で検討したものや委員の分析技術の向上に繋げると共に、各課会議及びグループ会議で要因と対策について検討を行った事例を委員会にあげて意見をもらい、再度各課に戻し周知することによって、職員の意識向上・喚起を促しました。さらに、各課での防止策や対応策を情報交換するようにしました。

(イ) 危機予知訓練

事故を未然に防ぐことや同じ内容のひやりはつと報告を繰り返しあげることがないためということ为前提に、「危機予知訓練」を毎月の委員会で行うようにしました。

今年度は各課の写真を用いて危機予知訓練及び対応策を委員会の中で検証するというを行いました。情報を共有して、危険と指摘されたことをそれぞれの課に持ち帰り改善に努めました。また、「危機予知訓練」をテーマに（株）HITより講師を招き特別研修を行いました。



(ウ) 高齢者施設見学の実施

今年度は、高齢者施設の見学を行いました。

東京・ひのでホーム、当園近くの敬和荘の2カ所の見学を実施。それぞれの施設で行われているリスクマネジメントの取り組みについて説明を聞き、学ばせていただきました。

イ ひやりはっと27年度まとめ

	負傷	服薬	誤嚥	誤飲	物品 破損	物品 損失	所在 不明	医療	その他	合計
生活1課	88	46	11	3	3	6	14	5	19	195
生活2課	59	50	9	1	0	2	3	1	14	139
生活3課	58	13	2	0	6	1	6	1	9	96
看護課	3	24	0	0	0	0	0	15	26	68
地域生活支援課	17	51	1	0	0	0	9	0	11	89
日中支援課	18	19	3	0	4	1	4	1	14	64
厚木身障等生活介護	2	3	1	0	2	2	1	0	30	41
相談研修課	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
総務課	0	0	0	0	0	0	0	0	13	13
合計	245	206	27	4	15	12	37	23	138	707

ウ 事故報告27年度まとめ

	負傷	服薬	誤嚥	破損	所在不明	医療過誤	その他	合計
生活1課	5	0	1	0	0	1	1	8
生活2課	13	2	4	1	0	0	5	25
生活3課	7	1	0	0	0	1	2	11
看護課	0	2	0	0	0	0	0	2
地域生活支援課	2	3	0	0	0	0	2	7
日中支援課	2	0	0	0	0	0	0	2
厚木身障等生活介護	1	1	0	0	0	0	0	2
相談研修課	0	0	0	0	0	0	0	0
総務課	0	0	0	0	0	0	2	2
合計	30	9	5	1	0	2	12	59

3 医療・看護

1 診療業務及び受診状況

厚木精華園診療所の役割は、利用者の健康管理と診療業務です。診療業務は継続して神奈川リハビリテーション病院の協力を得て行いました。

(1) 年間業務

年度の計画に基づき健康診断及び諸検査などを以下の内容で行いました。前年度と変わりなく実施できました。異常時には外部医療機関を受診して検査や治療、医療的フォローを実施しました。

ア 健診業務 内科（一般聴打診・血圧測定・心電図・身長・体重）
胸部レントゲン撮影（1回/年）
内科健診は誕生日健診と6ヶ月後に実施
耳鼻科、眼科、乳癌検診

イ 検査業務 血液検査（血清、生化学、、薬物血中濃度）
腫瘍マーカー検査 便潜血
尿検査（尿一般、）
脳波検査（医師から指示ある人のみ）

(2) 日常業務

ア 観察

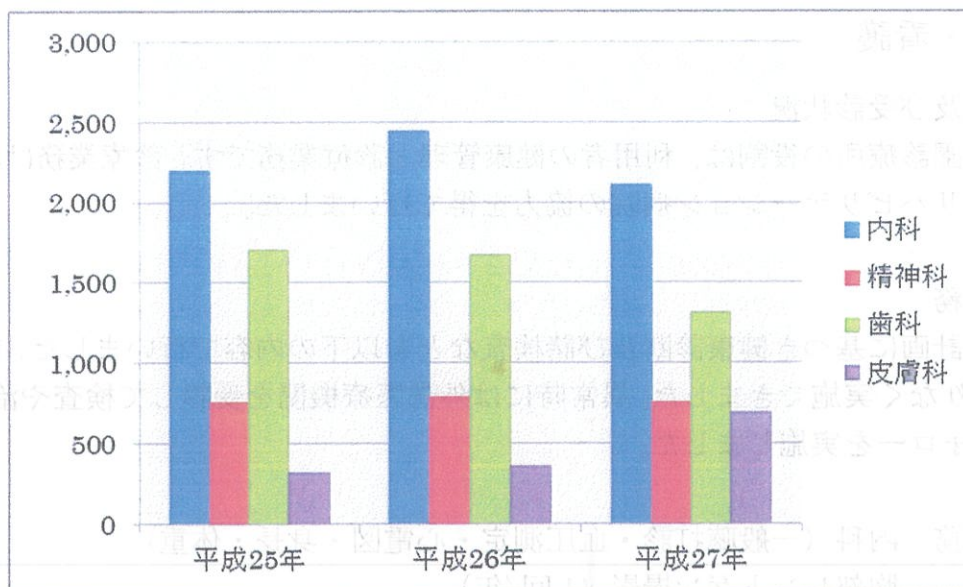
体調を十分に訴えることが難しい高齢知的障害者の健康把握のため、支援員から利用者の健康状態についての情報提供を受けながら、観察を行いました。また医療職員と支援員が同じ視点で利用者の健康状態について、共通認識をもちながら密接な連携が保てるように心がけました。

イ 園内診療状況

各科の診療は月間予定表を作成して計画的に行うことができました今年度の総診療件数4,864件であり、390件の減少となっています。統計資料による各科の前年度比は次のとおりでした。

診療件数

診療科	内科	精神科	歯科	皮膚科	総診療件数
平成25年	2,193	753	1,701	316	4,963
平成26年	2,444	783	1,668	359	5,254
平成27年	2,108	754	1,314	688	4,864



(ア) 内科

診療件数は2,108件で336件の減少となりました。1月から3月にかけて、インフルエンザ等の感染症の発生もあましたが蔓延することはありませんでした。

(イ) 精神科

診療は週2日と前年度と変わりなく件数は29件の減でした。

(ウ) 歯科

前年度1,668件 今年度は1,325件で歯科体制の変更もあり343件の減となりました。

(エ) 皮膚科

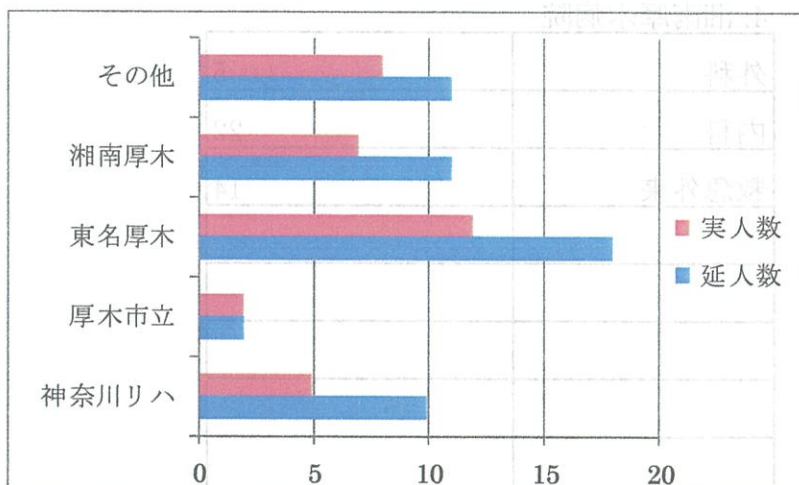
今年度は月2回の診療となり688件で昨年の2倍近い診療件数となりました。水虫、老人特有の皮膚疾患や初期の褥瘡などが目立ちました。園内での診療・処置にも限界あり並行して外部通院も行いました。

ウ 他医療機関の受診状況

園内治療には限界があり専門医による診療が必要な疾患や、より精密検査を必要とする疾患については神奈川リハビリテーション病院や東名厚木病院等を利用しました。発熱や外傷については近隣の病院を利用し、東名厚木病院等への通入院は緊急での利用がほとんどでした。高齢に伴う身体機能の低下や施設内での医療的ケアの限界などもあり延べ入院数は52件で昨年より1件の減でした。

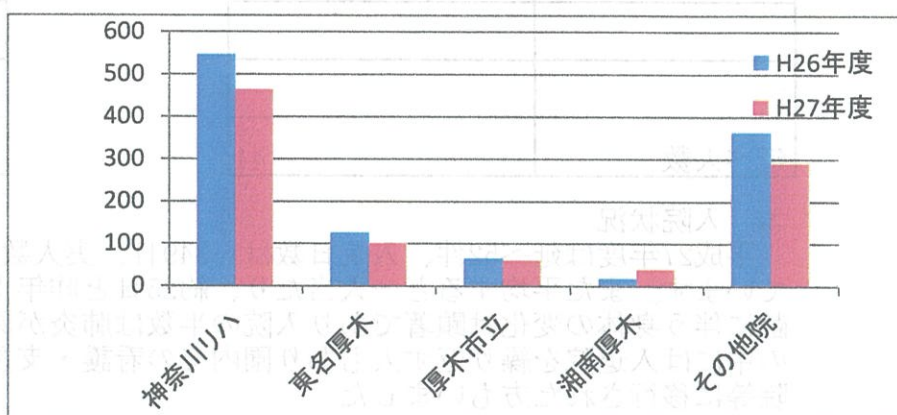
入院状況

入院先	延人数	実人数
神奈川リハ病院	10	5
厚木市立病院	2	2
東名厚木病院	18	12
湘南厚木病院	11	7
その他	11	8
計	52	34



厚木精華園通院状況

通院先	H26年度	H27年度
神奈川リハ	547	465
東名厚木	126	102
厚木市立	65	62
湘南厚木	18	41
その他院	364	291
計	1120	961



平成 27 年度通院状況

1. 神奈川リハ病院

内科	135
外科	111
泌尿器科	61
眼科	4
リハ科	11
脳神経科	3
神経内科	0
整形外科	56
皮膚科	78
耳鼻科	0
歯科	6
延人数計	465

2. 東名厚木クリニック病院

内科	40
外科	8
脳外科	4
整形外科	7
形成外科	17
泌尿器	0
耳鼻科	0
救急外来	26
延人数計	102

3. 厚木市立病院

外科	20
脳外科	4
眼科	0
泌尿器科	2
整形外科	14
内科	11
精神科	9
婦人科	0
救急外来	2
延人数計	62

4. 湘南厚木病院

外科	5
内科	22
救急外来	14
延べ人数	41

5. その他医療機関

峯崎整形外科	22
米澤外科内科	104
戸室耳鼻科	17
東海大	12
とびお診療所	3
近藤病院	9
あらかわクリニック	14
相州病院	27
曾我病院	13
厚木佐藤病院	18
仁厚会	4
そのた医院等	15
延べ人数	258

エ 入院状況

平成27年度は延べ52件、入院日数は1,349日、実人数34名で昨年とほぼ同数となっています。また平均すると一人当たり、約25日と昨年より5日間長くなりました。高齢に伴う身体の変化は顕著であり入院の半数は肺炎が原因でした。入院した利用者の中には入退院を繰り返す人もあり園内での看護・支援継続の困難さに療養型の病院等に移行された方もいました。

入院状況

NO	性別	年齢	疾患名	入院機関	入院期間	付添	入院日数
1	女	67	腸閉塞 小腸切除	湘南厚木	4/6-4/13		13
2	男	77	除脈	東名厚木	4/13-4/15		14
3	女	69	肺炎 腸閉塞	仁厚会	4/16-5/1		16
4	男	68	右下肢蜂窩織炎	神奈川リハ	4/13-4/30		18
5	男	74	SpO ₂ 低下 痰多量 発熱・肺炎	東名厚木	4/18-5/1	救急車	14
6	男	62	誤嚥性肺炎	東名厚木	4/23-4/30		8
7	女	79	SpO ₂ 低下 肺炎	仁厚会	4/30-6/9		41
8	男	77	SpO ₂ 低下 肺炎	近藤病院	5/1-6/9		40
9	男	81	肺炎	米澤外科内科	5/1-5/15		15
10	男	72	発熱39℃ 肺炎	市立厚木	5/2-5/20		19
11	男	85	食思不振 肺炎	湘南厚木	5/5-6/3	救急車	30

12	男	65	肺炎	米澤外科内科	5/9-7/13		65
13	男	83	夕食前に強直発作、譫妄状態 老人性脳萎縮てんかん診断あり	東名厚木	5/26-5/28		3
14	男	65	尿路感染・敗血症	東名厚木	6/3-6/16		14
15	男	85	食思不振	仁厚会	6/12-7/29		31
16	女	79	発熱37.7°C 心不全	仁厚会	6/24-8/3		40
17	男	68	右下肢蜂窩織炎による敗血症性 ショックの恐れ	東名厚木	6/25-6/26	救急車	2
18	男	68	東名厚木より転院右下肢蜂 窩織炎	神奈川リハ	6/26-7/15		20
19	男	78	大腸カメラ検査のため入院	東名厚木	6/29-6/30		2
20	女	81	肺炎	湘南厚木	7/21-8/18		29
21	男	68	右下肢蜂窩織炎	神奈川リハ	7/23-8/6		15
22	男	80	S字状結腸 腸ねん転	湘南厚木	7/27-8/19		24
23	男	85	食思不振による点滴治療 のため	オアシス湘南	7/29-11/18		113
24	男	55	発熱・蜂窩織炎	神奈川リハ	8/3-8/13		11
25	男	82	誤嚥性肺炎	米澤外科内科	8/10-2/19		194
26	男	65	左肺癌転移 左肺全的(8/13)	厚木市立	8/12-8/25		14
27	男	65	肺炎	神奈川リハ	8/13-8/24		12
28	男	68	右下肢蜂窩織炎	神奈川リハ	9/4-9/15		12
29	男	81	腹痛(虫垂炎の疑い)	東名厚木	9/2-9/17		16
30	男	56	発熱・SPOの低下 肺炎	東名厚木	9/23-10/1		9
31	男	68	右下肢蜂窩織炎	神奈川リハ	10/7-10/19		13
32	男	70	窒息	東名厚木	10/26-11/4		10
33	男	77	摂食機能検査入院	近藤病院	11/18-12/10	救急車	33
34	男	81	S字状結腸 腸ねん転 人工肛門造設	湘南厚木	11/29-1/12		45
35	女	67	夜間嘔吐、発熱39.0 誤嚥性肺炎	湘南厚木	12/5-1/6		23
36	男	62	T39.0°C SpO2 88%~92%	東名厚木	12/11-12/17		7
37	男	78	嘔吐	近藤病院	12/21-3/25		96
38	男	66	SPO2の低下、右肺炎	神奈川リハ	12/22-1/13		23
39	男	84	SPO2の低下、頻脈	東名厚木	12/24-1/7		15
40	女	77	誤嚥性肺炎	湘南厚木	12/25-2/29		72

41	男	56	誤嚥性肺炎	東名厚木	1/9-1/20	救急車	12
42	女	65	昼食(春巻き) 詰まらせ、チアノーゼ 誤嚥性肺炎	東名厚木	1/17-1/25		9
43	男	81	腹痛、腸閉塞	東名厚木	1/23-2/15		24
44	男	81	顔色不良 嘔吐、小腸ウイルス	湘南厚木	1/29-2/17		20
45	男	73	外出後歩行状態悪化 右大腿頸部骨折 人工骨頭置換術実施	神奈川リハ	2/1-2/19		19
46	男	55	居室で転倒し右大腿骨骨折 術実施	神奈川リハ	2/8-2/24		17
47	男	81	嘔吐、顔色蒼白、腸癒着	湘南厚木	3/5-3/22		18
48	男	57	発熱 CRP23↑ 尿路感染	東名厚木	3/6-3/14		9
49	男	84	右大腿骨骨折	東名厚木	3/14-		18
50	男	70	右臍胸、Spo2・意識低下	湘南厚木	3/26-	救急車	6
51	男	81	腹痛(虫垂炎)	東名厚木	3/28-4/4		4
52	男	81	小腸ウイルス	湘南厚木	3/30-		2

*救急車の要請は入院状況も含め13件でした。

オ 死亡者

入所利用者の死亡状況は次のとおりです。

	性別	年齢	疾患	医療機関	日時
1	女	69	肺炎	仁厚会病院	H27.5.1 10:44
2	男	85	園内にて死亡 検死結果:胸部動脈瘤破綻	検死・東名厚木病院	H27.6.21 18:59
3	男	66	誤嚥性肺炎	神奈川リハ	H28. 1.13 17:55
4	男	78	反復性肺炎	近藤病院	H28.3.25 4:43

カ その他

(ア) 感染症対策

インフルエンザワクチン予防接種の実施、インフルエンザウイルスキット、ノロウイルス抗体キット、マスクなどを購入し感染症予防の対策を取りました。また、支援員への感染症予防の啓発として専門医による研修会を開催とノロ対応訓練を行いました。今年度は感染症胃腸炎の感染は確認されませんでした。インフルエンザに罹患した人数はGHで3名、職員6名の計9名でした。また入院や老人施設等のショートステイを利用後に疥癬に罹患している事が分かり皮膚科受診と法人の感染症マニュアルを基本に対応し拡大することはありませんでした。

(イ) 医療的ケア

高齢化に伴い入退院を繰り返す中で医療的ケアが求められる機会が多くなっています。今年度も医療的ケアが必要となった方の受け入れや医療行為の変更等で25名の職員が研修を終了しました。

医療的ケアの対象人数は経鼻栄養：3名、胃ろう：5名、吸引：14名。

4 給食業務の状況

厚木精華園の利用者は一般的な高齢者と比べると身体的機能の低下が早く特に嚥下機能の低下で誤嚥性肺炎を発症しやすい為、利用者に寄り添った食事を『安全』『安心』そして、『スパイス愛で調理』をテーマに『感動』の給食業務を提供しています。

(1) 食事形態の改善と調理方法の工夫

高齢で嚥下機能が低下していく利用者に寄り添った食事は安全を第一に味、見た目、目の美しさを考慮して調理しています。

食事形態の特徴

- ア 「口どけ食」はペースト状にした食品にゲル化剤を使用して調理をします。食塊を形成しているので食べる意識が生じます。喉をスルーと落ちていきます。嚥下困難な利用者に多いに喜ばれる食事として当園には欠かせない嚥下食です。
- イ 「トロミ食」は調理後食品を細かくした後にトロミ剤を入れて口腔内でばらけないように硬すぎず柔らかすぎないように調理します。
- ウ 「カット食」は普通食の形態をさらに食べやすくカットをしました。
- エ 「普通食」でも利用者には合わせた調理で方法です。食べやすい大きさにカットします。煮物などは舌でつぶせる硬さで、食べやすい大きさにカットをして提供をしています。

(2) 医療対応食の実施

- ア 糖尿病、脂質異常症、高血圧、腎臓病、低残差、塩分制限等の医療食を医師の指示により実施をしました。

(3) 食事形態別食数 厚木精華園の入所者のみ

	(kcal)	普通食	カット食	トロミ食	口どけ食	経管栄養
普通食:	1,800~1,600	28名	21名	9名	7名	3名
制限食	1,400~1,000	19名	20名	3名	11名	

(4) 嗜好による個人対応の実施で食事への不満を解消しました。

嫌いな食べ物、食べづらい物は利用者ご本人からのご希望に沿った食事の提供を実施しています。

(5) 利用者『喫茶プティ招待』と『昼食プティ招待』

後援会からの補助金事業。『喫茶プティ招待』とは、栄養調理課職員が入所者、グループホーム、生活介護利用者の方々を6名から10名招待し、職員食堂で毎月1回午後2時から3時の一時間内で行う内容は、手作りお菓子や飲み物を囲んで自己紹介、談笑、風船バレー、伝言ゲーム、ギター演奏で唄い楽しい時間を過ごしました。

『喫茶プティ招待』の日時と招待者人数は、下記の通りです。

- 4月 14日 『プティ招待』6名を招待
- 5月 14日 『喫茶プティ招待』7名を招待
- 6月 18日 『喫茶プティ招待』6名を招待

- 7月 16日 『喫茶プティ招待』6名を招待
- 8月 24日 『喫茶プティ招待』6名を招待
- 9月 28日 『喫茶プティ招待』6名を招待
- 10月 22日 『喫茶プティ招待』6名を招待
- 12月 22日 『喫茶プティのクリスマス招待』10名を招待
- 1月 21日 『喫茶プティ招待』6名を招待
- 2月 10日 『喫茶プティ招待』6名を招待
- 3月 31日 『喫茶プティ招待』6名を招待



『昼食プティ招待』とは利用者が大好きな「握りのお寿司」を目の前でお好みを握るサービスです。今年からは、「口どけの握り寿司」で嚥下困難な利用者も笑顔で召し上がることが出来ました。

- 27年4月22日 『寿司まつり招待』利用者10名を招待
- 28年1月26日 『寿司まつり招待』利用者10名を招待



『行事食』と『季節食事』の実施

- 9月 17日 『長寿の祝い』高齢者施設ならではの行事、皆さんが食べやすいように調理されたお弁当でお祝いをしました。
 - 9月 2日 『秋分の日』おはぎ3種を昼食で提供しました。
「口どけのおはぎ」も大好評。
 - 10月 10日 厚木精華園最大のお祭り『ラ・フェスタ』
安全第一に美味しい屋台料理を提供しました。
 - 12月 9日 厚木精華園クリスマスパーティ『クリスマススペシャル弁当』でクリスマスを楽しみました。
 - 12月 31日 大晦日 天婦羅そばを提供しました。
 - 28年 元旦 朝食は、鯛のお頭つき姿煮、雑煮、いくらの和え物などで新年を迎えました。昼食はお刺身豪華盛り合わせ、お赤飯、伊達巻、数の子の紅白なます、お吸い物を提供しました。
 - 1月 7日 朝食 七草粥を提供しました。
 - 1月 12日 各課新年会 お刺身、天ぷらとお正月料理でお祝いをしました。
 - 1月 26日 鏡開きでお汁粉を提供し、「口どけ食のお汁粉」を提供大好評です。
 - 2月 3日 節分 小粒の甘納豆で「鬼は外！」をしました。
 - 3月 17日 春分の日 おはぎ3種を昼食で提供しました。
「口どけ食のおはぎ」を提供しました。
- 季節ごとの日本の食文化を献立に取り入れました。

5 苦情解決

園内に苦情解決責任者（園長）及び苦情受付担当者（支援部長、地域支援部長）と第三者委員を設けて、組織的に苦情解決に努めています。
職員には、苦情以外にも要望等も苦情として受付をすることを意識して実施しました。

(1) 第三者委員及び来園活動日

日時	内容
4月12日(日)	・家族会全体会にてご紹介と挨拶
6月12日(金)	・利用者自治会代表者との懇談会
9月18日(金)	・長寿の祝い行事視察
10月10日(日)	・ラフェスタ行事視察
1月17日(日)	・家族会との個別面談(6名相談有)
2月29日(月)	・一般職員との懇談会(職員7名) ・下半期の苦情報告

(2) 苦情内容

ア 苦情等受付方法

受付方法	件数
面接	10
電話	13
手紙・FAX等	0
その他	0
合 計	23

イ 苦情等受付経路

受付経路	件数
苦情受付担当者直接	3
第三者委員経由	0
苦情解決責任者経由	0
その他職員経由	20
その他	0
合 計	23

ウ 苦情申出人

利用者との関係	件数
本人	1
家族	10
代理人	0
不明(投書等)	0
その他	12
合 計	23

エ 苦情等の内容

複数あり

苦情等の内容	苦情(件数)	要望等(件数)
生活支援サービス	4	3
医療・看護サービス	0	1
相談サービス	0	0
食事サービス	0	0
環境	3	0
職員対応	1	3
その他	6	2
合 計	14	9

オ 苦情申出人の要望

複数あり

申出人の要望	件数
話を聞いて欲しい	2
教えて欲しい	0
回答が欲しい	3
調査して欲しい	2
改めて欲しい	20
その他	0
合 計	27

カ 苦情等対応結果

対応結果	件数
解決(改善等)	23
関係機関への引き継ぎ	0
保留(次年度引き継ぎ)	0
その他	0
合 計	23

Ⅲ 地域支援

1 短期入所事業 日中一時支援事業

27年度の短期入所事業の利用者の特色として中高齢期の在宅の方でご家族の高齢化により家庭で継続して過ごすことが難しくなり緊急的に受け止め、長期的に利用する方、重複障害のためハード面で自宅近隣での知的障害者を支援する施設での短期利用ができず当園を利用する方が目立ちました。平成18年10月より行っている日中一時支援事業は、厚木市、愛川町とそれぞれ委託契約を結んでいます。

(1) 月別短期入所状況

(単位：人)

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男	人	11	6	12	9	8	6	4	4	5	3	5	6	79
	日	119	94	149	184	158	116	46	38	48	66	47	48	1113
女	人	3	6	9	3	5	4	3	6	4	1	2	3	49
	日	29	28	23	16	10	9	7	17	9	2	5	7	162
計	人	14	12	21	12	13	10	7	10	9	4	7	6	128
	日	148	122	172	200	168	130	53	55	57	68	52	55	1280

(2) 市町村別短期利用者状況

(延べ人数)

区分	厚木市	伊勢原市	相模原市	秦野市	海老名市	小田原市	平塚市	愛川町	湯河原町	大和市	綾瀬市	山北町	逗子	横須賀市	計
男	21	0	7	0	1	15	10	5	0	1	0	0	7	12	79
女	24	0	20	3	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	49
計	45	0	27	3	1	15	10	5	0	1	1	0	8	12	128

(3) 月別日中一時状況

(単位：人)

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延べ人数	男 人	0	1	1	0	0	2	1	1	0	0	0	0	6
	女 人	3	3	8	5	6	7	8	1	8	5	5	8	67
	計 人	3	4	9	5	6	9	9	2	8	5	5	8	73

2 相談支援

相談研修課のケースワーカーを中心に、相談の受け付けを行いました。入所相談が中心で、短期入所へのほか、平日、日中活動の場として生活介護や日中一時支援を希望する方の相談がありました。市町村や指定相談事業所の窓口との連携、他施設との情報交換を十分に going to be able to do that. 相談件数は以下に示す表の通りでした。

相談支援の状況

(単位：件)

区分	厚木市	相模原市	秦野市	平塚市	小田原市	茅ヶ崎市	湯河原町	横浜市	座間市	海老名市	愛川町	清川村	川崎市		
見学電話相談	男	8	1	1	3	4	0	0	0	2	2	0	1		
	女	9	2	2	0	3	0	1	0	0	0	0	1		
	計	17	3	3	3	7	0	0	1	0	2	2	0	2	
区分	綾瀬市	伊勢原市	藤沢市	鎌倉市	大磯町	大井町	横須賀市	三浦	逗子	山北	大和	県外	不明	計	
見学電話相談	男	0	0	2	1	0	0	1	0	1	0	2	0	0	29
	女	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	21
	計	0	0	2	2	0	0	2	0	2	0	2	0	0	50

3 生活介護について

平成 27 年度は、定員 140 名で生活介護事業を行いました。利用者の契約状況として一般入所 107 名、共同生活援助利用者 30 名、在宅利用者 10 名となっています。(平成 28 年 3 月 31 日現在)

サービス内容としては、『日中の過ごし場』として、入浴・排泄・食事、理美容などの「日常生活支援」、生産活動、創作活動、機能維持活動、余暇的活動などの「日中活動支援」、その他送迎、様々なプログラムを組み立て、サービス提供をしてきました。

(1) サービス概要

ア 日常生活支援

(ア) 入浴

生活寮での一般浴、マルチリフター浴及び機械浴を実施しました。特に機械浴については、利用者の身体的負担が軽減され、ニーズが高くなってきています。

(イ) 食事

利用者のニーズ、摂食状況に応じた食事内容、介助を行ってきました。「安全な食事・楽しい食事」ができるよう様々な工夫をしてきました。

(ウ) 理美容

理容、美容合わせ月 4 回実施しました。希望利用者には、毛染め、パーマなども実施しました。園内理美容室への移動が困難な利用者に対しては、理美容師が生活寮まで出向いて実施しました。

イ 日中活動

(ア) 生産活動

「働きたい」という気持ちを大切に、利用者一人一人の希望、作業能力に合わせて作業の提供をしました。

内容としては、「アルミリサイクル」「DVD・CD 解体」を中心に行いました。活動で得た売り上げは、作業工賃として利用者へ支給しました。

(イ) 創作活動

① 絵手紙・刺し子

それぞれ月 1～2 回、外部より講師、ボランティアを招いて作業活動室で実施しました。絵手紙については、参加者の作品を園内等に展示しました。

② 塗り絵

題材は、豊富なバリエーションを用意したことで、個性豊かな多くの作品ができあがりました。

(ウ) 機能維持活動

高齢化に伴う身体機能低下及び廃用症候群の予防を目的とし、ボールやお手玉を使って身体を動かしたり、理学療法士による機能訓練及び理学療法士の指導に基づいた職員による機能維持運動などを実施しました。

◎理学療法実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
PT勤務日数(のべ)		10	8	10	12	12	11	8	10	6	10	10	10	117
理学療法取組回数 ※PT介入によるもの	1課	2	2	2	3	2	2	2	2	1	2	2	2	24
	2課	2	1	2	3	3	3	2	2	2	2	2	2	26
	3課	2	2	2	3	3	2	2	2	1	2	2	2	25
	在宅	2	2	2	1	2	2	1	2	-	2	2	2	20
	ホーム	2	1	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	22

(エ) 余暇的活動

① カラオケ・映画会

それぞれ週1回、作業活動室で定期プログラムとして取り入れ、実施しました。活動プログラムの中でも楽しみなものひとつとして定着してきました。

② 音楽レク

月1回、外部より講師を招いて、生活寮で実施しました。参加した利用者は音楽に合わせて歌い、体を動かしていました。

③ 売店（ファミリーマート）

月1回、近隣のファミリーマートの協力をいただき、体育館にて菓子・飲料・雑貨類など、利用者の希望物品などを販売しました。月1回の恒例行事となり、売店を心待ちにしている利用者がとても多くなりました。

④ 福祉ネイル

月に1回、外部よりネイリストを招いて、相談室の1室を活用しネイルを行ないました。利用者は、笑顔とともに塗ったを見せてくれるなど、楽しんでいました。

⑤ 喫茶おはなし

月に1回、相談研修課が中心となり、ボランティアを招いてゆっくりとコーヒーや紅茶・綿菓子等飲食しながら、話をしたり・聴いたり楽しんでいました。

エ その他

(ア) 送迎

厚木市・清川村在住の共同生活援助利用者、在宅利用者に対して実施しました。安全・安心できる運転を心掛けました。

(2) 月別利用者状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均
営業日数	21	18	22	22	21	19	21	19	19	19	20	22	
利用者数(のべ)	2922	2462	3063	3008	2859	2696	2976	2666	2655	2609	2696	2956	2797.3

4 厚木身体障害者等生活介護事業所『とまと』

厚木市より事業者指定を受け、厚木精華園による運営が5年目となりました。引き続き厚木市との連携の中、安定した経営をこれからも歩んでいきたいと思いを。自立支援プログラム『この指とまれ!』も定着し、年間10回実施し内容も外出、食事、料理教室等豊富で利用者の喜びはもちろん、自信にも繋がったと思いを。通常の活動も個々の意見を反映し、自主的に行えるよう配慮しました。また、第三者委員の方に介入していただいたり、利用者アンケートを年2回実施し要望を挙げやすい環境を推進しています。入浴支援については、前年度利用数を大きく上回ることが出来ました。6年目は更に利用者が生き甲斐となるような環境を作っていきます。

(1) 年間事業実績

	区分6	区分5	区分4	区分3	総計
男性	588	447	557	170	1,762
女性	511	360	342	80	1,293
計	1,099	807	899	250	3,055

週末イベントなど、必要性に応じて土曜日・日曜日に事業実施を行ってきました。このことにより、「とまと」利用者が一同に集まる場を提供することができました。

項目	事業実施日	延利用者数	1日平均利用者数
実績	246日	3,055人	12.4人

(2) 曜日別利用予定者数

曜日	月	火	水	木	金
利用人数	16人 (男10・女6)	17人 (男8・女9)	11人 (男9・女2)	14人 (男10・女4)	16人 (男7・女9)

(3) 利用者概要

利用契約者数…30人(男性17人・女性13人)

年齢分布…10代(1人)・20代(2人)・30代(8人)・40代(8人)・50代(7人)・60代(4人)

障害程度区分…区分2(なし)・区分3(3人)・区分4(7人)・区分5(10人)・区分6(10人)

障害原因…頸椎損傷(0人)・脳外傷(5人)・脳内出血、脳梗塞(8人)

脳性マヒ(12人)・脳炎(1人)・糖尿病(4人)・その他(7人)

車椅子使用者…26人

白杖使用者…2人

※年間ボランティア数…30名(延人員)

(4) 活動実績

ア 防災訓練…月1回、年間12回実施

4月	5月	6月	7月	8月	9月
緊急時対応訓練(月曜利用者)	緊急時対応訓練(火曜利用者)	緊急時対応訓練(水曜利用者)	緊急時対応訓練(木曜利用者)	緊急時対応訓練(金曜利用者)	避難場所への移動訓練
10月	11月	12月	1月	2月	3月
緊急時対応訓練(月曜利用者)DVD使用	緊急時対応訓練(火曜利用者)DVD使用	緊急時対応訓練(水曜利用者)DVD使用	緊急時対応訓練(木曜利用者)DVD使用	緊急時対応訓練(金曜利用者)DVD使用	避難場所への移動訓練

イ 自立支援プログラム「この指とまれ!!」実績

4月	5月	6月	7月	8月	9月
0回/0名	1回/5名	2回/9名	1回/6名	1回/4名	1回/9名
10月	11月	12月	1月	2月	3月
1回/8名	2回/16名	0回/0名	0回/0名	0回/0名	0回/0名

5 ボランティアの受入れ

年間を通して、のべ217名の方にボランティアによる協力をいただきました。内容として定例受入れでは、作業補助、絵手紙、刺し子、裁縫、売店販売補助など。行事関係では、四大行事、ラ・フェスタ、地域コンサートなどです。

月別ボランティア数及び内容







月	ボランティアのべ人数	主な内容及び参加数
4月	24名	・定例(2名) ・厚木市民吹奏楽団演奏会(22名)
5月	17名	・定例(2名) ・地域交流レクリエーションDAY(8名) ・ふれあいフェスティバル(7名)
6月	11名	・定例(9名) ・デザートテラス(2名)
7月	16名	・定例(10名) ・夏まつり(6名)
8月	7名	・定例(7名)
9月	31名	・定例(9名) ・長寿の祝い(22名)
10月	63名	・定例(4名) ・ラ・フェスタ(54名) ・地域交流レクリエーションDAY(5名)
11月	6名	・定例(6名)
12月	12名	・定例(5名) ・クリスマス会(7名)
1月	11名	・定例(11名)
2月	7名	・定例(5名) ・デザートテラス(2名)
3月	12名	・定例(2名)
合計	217名	

6 福祉的就労

共同生活援助利用者2名、栄養調理課非常勤職員として4月1日～10月31日まで1名と11月4日～平成28年3月31日まで1名を雇用しました。業務内容としては、調理補助を行いました。

7 共同生活援助事業 (グループホーム)

	①	②	③	④	⑤
写真					
ホーム名	グループホーム ゆめホーム	グループホーム はなホーム	グループホーム さくらホーム	グループホーム そらホーム	グループホーム あおぞらホーム
タイプ	2階一戸建	2階一戸建	2階一戸建	2階一戸建	平屋一戸建
開設年月	平成9年4月 平成17年3月 に移転	平成14年4月	平成14年12月	平成15年10月	平成18年10月
所在地	厚木市 鳶尾地区 4丁目	厚木市 鳶尾地区 4丁目	厚木市 鳶尾地区 4丁目	厚木市 鳶尾地区 4丁目	厚木市 鳶尾地区 4丁目
定員	4名+体験1名	6名	4名	5名	2名
入居者数	男性：4名	男性：5名	女性：2名	男性：4名	男性：1名 女性：1名
体験部屋	1				
家賃	35,000円	33,000円	32,500円	33,000円	30,000円
食費	14,550円	13,900円	9,270円	11,630円	6,190円
光熱水費	17,150円	10,440円	8,280円	13,460円	17,090円
日常生活品費	1,000円	1,000円	1,000円	1,000円	1,000円
日中活動	福祉サービス4名 介護保険併用1名	福祉サービス5名 介護保険併用2名	福祉サービス2名	福祉サービス4名	福祉サービス2名
療育手帳	A 2-3名 B 1-1名	A 1-2名 A 2-2名 B 1-1名	A 1-1名 B 1-1名	A 2-4名	A 2-2名
障害支援区分	区分2-1名 区分3-1名 区分4-1名 区分5-1名	区分3-3名 区分4-1名 区分5-1名	区分3-1名 区分4-1名	区分3-3名 区分4-1名	区分4-2名
支援体制(時間)	(平日) 15:00~19:15 (休日) 10:45~19:15	(毎日) 6:00~9:00 (平日) 15:00~19:15 (休日) 10:45~19:15	(平日) 15:00~19:15 (休日) 10:45~19:15	(毎日) 6:00~9:00 (平日) 15:00~19:15 (休日) 10:45~19:15	(平日) 15:00~19:15 (休日) 10:45~19:15
夜間支援	夜勤体制	巡回体制	巡回体制	巡回体制	巡回体制
行事等	一泊旅行(年4回)、日帰りレク(年5回)、ふれあいフェスティバル、				

⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
					
グループホーム メゾンゆり 平屋一戸建	グループホーム メゾンあやめ 平屋一戸建	グループホーム めいホーム 平屋一戸建	グループホーム ハイツすみれ 平屋一戸建	グループホーム いずみホーム 平屋一戸建	グループホーム ひのきホーム 平屋一戸建
平成19年7月	平成19年7月	平成20年10月	平成21年5月	平成22年5月	平成24年5月
厚木市 鳶尾地区 4丁目	厚木市 鳶尾地区 4丁目	厚木市 鳶尾地区 2丁目	厚木市 鳶尾地区 4丁目	厚木市 鳶尾地区 1丁目	厚木市 上荻野地区
3名	3名	5名	5名	5名	5名
女性：2名	女性：1名	女性：5名	女性：5名	女性：5名	男性：5名
26,000円	26,000円	37,000円	37,000円	38,000円	32,500円
10,900円	10,900円	13,130円	13,750円	13,540円	15,820円
8,340円	10,230円	12,410円	13,480円	11,420円	15,230円
1,000円	1,000円	1,000円	1,000円	1,000円	1,000円
福祉サービス2名 介護保険併用2名	福祉サービス1名 介護保険併用1名	福祉サービス5名 介護保険併用4名	福祉サービス4名 介護保険併用3名	福祉サービス5名 介護保険併用3名	福祉サービス5名 介護保険併用1名
A1-1名 B1-1名	B1-1名	A1-1名 A2-3名 B1-1名	A1-2名 A2-2名 B1-1名	A2-5名	A2-4名 B1-1名
区分3-1名 区分4-1名	区分2-1名	区分4-3名 区分5-2名	区分5-3名 区分6-2名	区分3-1名 区分4-3名 区分5-1名	区分3-1名 区分4-3名 区分5-1名
(毎日) 6:00~9:00 (平日) 15:00~19:15 (休日) 10:45~19:15	(毎日) 6:00~9:00 (平日) 15:00~19:15 (休日) 10:45~19:15	(平日) 15:00~19:15 (休日) 8:00~19:15	(平日) 15:00~19:15 (休日) 8:00~19:15	(平日) 15:00~19:15 (休日) 10:45~19:15	(平日) 15:00~19:15 (休日) 8:00~19:15
巡回体制	巡回体制	夜勤体制	夜勤体制	夜勤体制	夜勤体制
クリスマス会、各自治会（地域清掃、防災訓練、盆踊り、賀詞交換会）、防災訓練（毎月）					

8 相談支援事業所「ここから」

(1) 概要

本事業所は指定特定相談支援事業所として指定を受け、これまで地域での高齢知的障害者支援を積み上げてきた厚木精華園の強みを活かし、他職種とりわけ介護保険事業者（居宅事業所のケアマネージャー、地域包括支援センター等）との連携を強化し、地域包括ケア社会実現に向けた一翼を担いました。

10月より厚木市の障害者相談支援事業の委託を受け、ケアマネジメント手法に基づき相談支援に取り組みました。

下半期は、厚木市の目指す「地域包括ケア社会の実現」のための一歩として基幹相談支援センターが設置され、相談支援事業所がそのもとに位置づけられ、総体として相談支援体制構築が整備されました。そうした中で「ここから」では、「障がいのある人が安心していきいきと生活できる環境づくり」を目標に、相談利用者の方々が“その人らしく地域で暮らすお手伝いをしたい”、“個々の”きれいな「色（カラー）」を発揮するお手伝いをしたい”との思いで相談事業を進めてきました。

相談件数をみると、担当地区である荻野・睦合地区における相談件数が多いですが、小鮎・緑ヶ丘の相談も比較的多く、事業開始2か月目より件数が増加しその後漸増傾向にありました。相談者を障害別にみると、ご本人の相談では肢体不自由かつ高次脳機能障害の方の利用延件数が多く、関係機関・ご家族からの相談では精神障害、知的障害の方の利用率が一定数あります。また「ここから」と荻野地域包括支援センターが近距離に位置していることから、包括支援センター経由での相談受理も多くなりました。こうした状況を踏まえ、年度途中から相談員（臨床心理士）1名を配置し、相談者の障害特性に応じて柔軟に対応できる質の高い相談支援体制となるよう努めました。

(2) 具体的な内容

①相談実績 新規 121件 継続 639件 計 760件
相談方法 訪問 85件 来所 49件 電話等 570件 同行他 56件
障がい別 知的 293件 精神 47件 身体 499件 高次脳 257件
その他 38件 計 1134件（※重複あり）

②計画相談 契約者数（登録者数） 67名
新規 20名 計画作成 35件 モタリング[®] 38件

③他機関との連携

基幹相談支援センター、相談支援事業所、荻野地域包括支援センター、睦合地域包括支援センター、厚木市社会福祉協議会、特別老人ホームや居宅介護事業所、訪問看護事業所など、関係機関との横の連携を密にとるよう努め事業を進めました。

④障害支援区分認定調査 10月より 62件実施

IV 研修

1 研修報告

(1) 特別研修

医療や介護等の専門家をお招きして、知識を習得する研修として今年度は6回実施しました。

	日程	内容	参加人数
1	5月29日	「交通安全講習」 交通安全協会職員	24名
2	7月24日	「腰痛予防研修」 厚木精華園 生活2課 濱田智弘 日中支援課 平 幸雄	33名
3	9月25日	「メンタルヘルス研修」 ～感情労働とストレスケア～ あつぎEAPソリューションパートナー 荒木田和子氏	36名
4	10月7日	「感染症予防研修」 厚木精華園診療所 堀野哲也医師	27名
5	11月17日	「PC操作技術向上研修」 厚木精華園 生活2課 鳥海進太郎	14名
6	1月29日	「人権擁護研修」 利用者支援に携わる職員のためのストレスケア	47名

(2) 非常勤研修

情報交換の場として又は知識習得の場として2回実施しました。

	日程	内容	参加人数
1	5月11日 5月12日 5月14日	「利用者さんの人権擁護について」 支援部長 長谷川正己	34名
2	10月16日	施設見学「社会福祉法人 紅梅会 紅梅学園」	14名

(3) 救急救命講習

当園応急手当普及員による3時間の普通救命コース2回実施

	日程	内容	参加人数
1	6月11日 6月22日	普通救命講習	42名

(4) 基礎研修

自主的な発表や研修を企画し行う研修 今年度は3回実施

	日程	内容	参加人数
1	5月15日	「正しいおむつの当て方 使い方」 リブドゥコーポレーション リフレサポーター 笠木玲奈氏	7名
2	6月10日	「正しいおむつの当て方 使い方」 リブドゥコーポレーション リフレサポーター 笠木玲奈氏	8名
3	2月8日	「メンタルヘルス」 衛生委員会企画	10名

(5) 高齢者支援セミナー

高齢者の支援に関するセミナーとして厚木精華園が主催し年間12回実施しました。

平成27年度は「高齢期に寄り添う支援をめざして」をテーマに開催し45団体の登録があります。

	日程	テーマ	講師	参加人数
1	4月22日	拘縮予防への取り組み	厚木精華園 生活支援員 宇井拓也他	15施設 25名
2	5月27日	摂食嚥下研修 食事介助を見直そう	東名厚木病院 摂食嚥下療法科 芳村直美氏	21施設 35名
3	6月24日	「高齢研」合同研修会 夜間支援について	パネルディスカッション	22施設 37名
4	7月22日	さがみ野ホーム見学		16施設 21名
5	8月26日	オムツのあて方	リブドゥコーポレーション	16施設 35名
6	9月16日	大腿部頸部骨折の対応について	やまばと学園 鍋倉匡彰氏	18施設 30名
7	10月28日	高齢者利用者のニーズに応える 日中活動や自治会活動	厚木精華園 日中支援課主任 新山覚 生活支援員 菅野雄樹	18施設 27名
8	11月25日	「高齢研」合同研修会 長編動画 「毎日がアルツハイマー」	関口祐加監督	22施設 50名
9	12月16日	高齢期に多い疾患と事例	厚木精華園 生活課主任 中込実穂 看護課課長 福岡君代	15施設 16名

10	1月27日	歯磨きを知ろう	厚木精華園 歯科衛生士土屋久美子 藤原絹代	18施設 30名
11	2月24日	高齢者介護施設における 看取りケアの実際	社会福祉法人 中心会中心荘 第一・第二老人ホーム 健康管理課 課長補佐 阿高 洋子氏	16施設 32名
12	3月23日	看取りについて語ろう ～事例紹介とグループワーク～	社会福祉法人 清光会 障害者支援施設 清光ホーム 副施設長 梶山卓也氏	13施設 22名

(6) 外部発表

高齢者の支援に関する外部発表を年間10回行いました。

	日程	テーマ	発表者	研修開催先
1	7月12日	厚木精華園実践報告	地域支援部長 今井幸世	津久井やまゆり 園家族会
2	6月24日	高齢化に伴う夜間支援の現 状と課題	生活3課課長 長尾健一	神奈川県知的障害 高齢者問題研究会
3	9月19日	障害者の老化の認知につい て	相談研修課主任 齋木よしみ	よるべ沼代保護 者会
4	11月18日	厚木地区法人後見制度推進 機構について	地域支援部長 今井幸世	厚木市相談支援 事業地域包括支 援センター合同 会議
5	11月19日	高齢知的障害者の支援の現 場から	地域支援部長 今井幸世	すずらんの会
6	11月21日	中高齢期以降の課題	地域部長 長谷川正己	南足柄手をつな ぐ育成会
7	11月24日	最期まで地域で過ごすため に	地域支援部長 今井幸世	東名厚木病院ケ アカンファレン ス
8	12月1日	年を取るということ	相談研修課主任 齋木よしみ	新宿区立福祉作 業所
9	12月7日	質を追求する福祉セミナー	山根園長	真柄福祉財団
10	12月15日	高齢知的障害者の支援現場 から	地域支援部長 今井幸世	袖ヶ浦ひかりの 学園

平成27年度 かながわ共同会研修実績表

事業名	メンタルヘルス研修	メンタルヘルス研修	メンタルヘルス研修	世話人研修 (法人グループホーム連携会主催)	会計担当者研修 (会計担当者連絡会主催)
テーマ	セルフケア	セルフケア	メンタルヘルス	権利擁護	会計担当者の知識・技術の向上
開催日	①9/25、②2/8	1/12	2/25	①11/12、②12/10	11/26
会場	①厚木精華園、②厚木精華園	津久井やまゆり園	愛名やまゆり園	①厚木市萩野総合運動公園会議室	社会福祉法人県央福祉会本部
内容	・ストレスマネジメントについて	・講義 ・心の健康チェック	・うつ病について (知識、対応)	グループホーム利用者の権利擁護と支援者の役割	視察研修 ・本部一括処理の状況について ・その他、取組みについて
講師	あつぎEAPソリューション パートナー 荒木田 和子氏	(株)ジェイアイシー 鈴木憲太郎氏	愛光病院 大高 正光氏	和泉短期大学 児童福祉学科 教授 鈴木敏彦	県央福祉会 事務局長 鈴木紀雄氏 経理部長 落合達正氏
対象者	厚木精華園 職員	津久井やまゆり園職員	愛名やまゆり園職員 【新人職員を主として】	四園グループホーム世話人 (非常勤)	会計担当職員
参加人数	46名	41名	23名	①47名、②35名	6名

各園開催

事業名	オープンセミナー	オープンセミナー	オープンセミナー	オープンセミナー		
テーマ	メンタルヘルス	行動障害	利用者支援(体験型研修)	利用者支援		
開催日	2/26	3/17	9/11	10/1		
会場	桑野精華園	愛名やまゆり園	厚木精華園	津久井やまゆり園		
内容	対人援助職のメンタルヘルスケア ～自分らしく仕事するために～	「行動障害がある方への理解 と支援について」	(利用者も自分も快適に)	「摂食・嚥下障害」		
講師	子ども子育てラボラトリー 代表 宇野 務氏	社会福祉法人県央福祉会 ぼらーの上和田 所長 西岡 秀樹氏	株式会社 モルテン	日本大学歯学部 接肢機能療法学 (日本大学付属病院副院長、歯 学博士) 教授 植田耕一郎 氏		
対象者	園内職員、法人内職員、その 他希望の方	園内職員、法人内職員、その 他希望の方	園内職員、法人内職員、その 他希望の方	園内職員、法人内職員、その 他希望の方		
参加人数	31名	60名	19名	42名		

2 実習生・研修生受入れ

(1) 実習・研修等受入れ計画

研修種別	開催予定	受入れ予定人数	備考
保育士、社会福祉士、社会福祉主事、介護福祉士養成	通年	概ね20名程度	
教員施設体験研修	随時	未定	
教員免許特例法 介護体験研修	随時	15名	
障害福祉施設職員研修	随時	7～8名	

(2) 実習・研修等受入れ実績

保育実習	受入れ人数	受入延べ日数
1 和泉短期大学	3	33
2 聖ヶ丘教育専門学校	2	22
3 鶴見大学短期大学部	2	22
4 湘北短期大学	2	24
5 鎌倉女子大学短期大学部	3	36
6 国学院大学	2	22
7 聖セシリア女子短期大学	2	22

社会福祉士	受入れ人数	受入延べ日数
8 日本社会事業大学	2	48
9 田園調布学園大学	2	40
10 日本福祉教育専門学校	1	24
11 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	1	15

教員免許特例法	受入れ人数	受入延べ日数
12 神奈川工科大学	13	65

他施設からの研修受け入れ	受入れ人数	受入延べ日数
13 真柄福祉財団先進施設研修受入	12	36
14 新宿あした会	3	3

計 14機関	50	412
--------	----	-----

V 家族会活動

月に1回、定期的に開催されました。午前中に四役会議（家族会から会長、副会長、会計、書記、園より、園長、支援部長参加）、役員会（四役会議参加者及び各課家族会幹事参加）が開催され、午後には、全体会と課別懇談会が開催されました。

また6月は親睦日帰り旅行、8月はお墓参りと盂蘭盆会法要、9月は園内美化清掃及びバザー準備、10月はラ・フェスタにおけるバザーを実施しました。3月は体育館で春の宴を開催しました。

家族会実施状況

日程		内容	その他
27年4月12日(日)	PM	全体会・課別懇談会	役員会あり
5月10日(日)	PM	総会	役員会あり
6月14日(日)	AM~	日帰り旅行	
7月12日(日)	PM	全体会・課別懇談会	役員会あり
8月28日(日)	PM	盂蘭盆会法要・全体会・課別懇談会	役員会あり
9月27日(日)	終日	美化活動(昼食) 全体会 救命救急講習	役員会あり
10月10日(日)	終日	ラ・フェスタ	
11月8日(日)	PM	全体会・課別懇談会	役員会あり
12月13日(日)	PM	全体会・法人後見に関する研修会	役員会あり
28年1月17日(日)	PM	全体会・第三者委員との個別面談・課別懇談会	役員会あり
2月14日(日)	AM	全体会・課別懇談会	
3月13日(日)	PM	全体会・春の宴	役員会あり

VI 後援会活動

<年間事業報告>

- ・平成27年4月28日 後援会役員会
 - ① 平成26年度事業実施状況について
 - ② 平成26年度収支決算書について
 - ③ 平成26年度監査報告について
 - ④ 平成27年度事業計画(案)について
 - ⑤ 平成27年度収支予算(案)について
 - ⑥ 役員の選任について
 - ⑦ その他
- ・平成27年 6月 1日 第1回デザートテラス(89名参加)
- ・平成27年 7月29日 夏まつり2015
- ・平成27年 9月 2日 長寿の祝い
- ・平成27年10月10日 ラ・フェスタ2015
- ・平成28年 2月29日 第2回デザートテラス(84名参加)
- ・平成28年 3月17日 役員会開催
- ・喫茶プティ開催(11回)
- ・寿司プティ開催(2回)

<補助事業>

- 1 行事等各種事業への補助
 - ① 行事補助(夏祭り・長寿の祝)
 - ② 人権擁護活動への補助(厚木地区オンブズマンネットワーク会費)
 - ③ ラ・フェスタ開催補助
 - ④ ボランティア交通費補助
 - ⑤ プティへの補助
- 2 施設設備への補助
 - ① テント2張り
 - ② コーヒーメーカー
 - ③ 家庭用綿菓子
- 3 後援会の発展及び事業の推進
 - ① 会員への各種案内の発送
 - ② ラ・フェスタ開催時に後援会の入会及び事業内容の案内

1 運営状況実績

(平成28年3月31日現在)

(1) 指定管理事業の状況

			上半期実績	下半期実績	年間実績
障害者支援施設	施設入所支援	定員	110	110	110
		延べ人数	18,578	19,259	37,837
	生活介護	定員	140	140	140
		延べ人数	17,010	16,567	33,577
短期入所		定員	2	2	2
		延べ人数	940	340	1,280
		稼働率	257%	93%	175%

*短期入所は空床型の実施を含む

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
施設入所	0	0	7	23	28	49	107
生活介護	0	1	22	34	35	60	152

(2) 自主事業の状況

ア グループホーム入居者の状況 (11ヶ所)

区分	入居者数	平均年齢	一人当たり平均			日中活動			入居前		
			居室面積(畳)	利用料(食費含月額)	収入(年金含月額)	園内通所	園外通所	就労	自施設	在宅	その他
男	19	64	6	64,638	77,970	11	9	0	4	11	4
女	21	71.2	6	62,065	76,596	17	6	0	11	4	6
計	40	67.5	6	63,118	77,249	28	15	0	15	15	10

※重複者あり

イ 日中一時支援事業の状況

区分		H26年度	H27年度
		利用延べ人数(人)	利用延べ人数(人)
児童	男性		
	女性		
	計		
成人	男性	9	6
	女性	94	67
	計	103	73

ウ 厚木身体障害者等生活介護事業所の状況

生活介護	区分	H26年度	H27年度
	定員	20	20
	延べ利用者数	3,033	3,055

エ サービス等利用計画作成数

	H26年度	H27年度	厚木市	清川村	座間市	秦野市	その他
件数	34	73	43	1	6	7	16

(3) その他

ア 障害者雇用の状況

区分		H26年度	H27年度
障害者雇用	男	1	1
	女	0	2
	計	1	3

イ 実習生受入状況

区分	H26年度	H27年度
実人数	47	50

ウ ボランティア受入状況

区分	H26年度	H27年度
延べ人数	196	217

エ 見学者受入状況

区分	H26年度	H27年度
延べ人数	412	366

オ 養護学校実習生受入状況

区分	H26年度	H27年度
延べ人数	1	2

2 厚木精華園の経営状況

事業活動内訳表

(単位：円)

		サービス区分	27度決算額(A)	26度決算額(B)	増減(A)-(B)	
サービス活動増減の部	収益	就労支援事業収益	776,755,055	802,036,684	△ 25,281,629	
		障害福祉サービス等事業収益	19,850,643	23,916,881	△ 4,066,238	
		医療事業収益	235,331,000	232,629,000	2,702,000	
		神奈川県指定管理料収益	1,312,010	1,199,610	112,400	
		その他の収益		21,730	△ 21,730	
			サービス活動収益計	1,033,248,708	1,059,803,905	△ 26,555,197
	費用	人事業務費	646,470,726	635,573,796	10,896,930	
		就労支援事業費用	128,472,480	138,046,904	△ 9,574,424	
		利用者負担軽減費	127,314,051	140,980,670	△ 13,666,619	
		減価償却費	13,917,083	14,701,125	△ 784,042	
国庫補助金等特別積立金取崩額		△ 945,997	△ 935,468	△ 10,529		
		サービス活動費用計	915,228,343	928,367,027	△ 13,138,684	
		サービス活動増減差額	118,020,365	131,436,878	△ 13,416,513	
サービス活動外増減の部	収益	借入金利息補助金収益				
		受取利息配当金収益	78	73	5	
		有価証券売却益				
		投資有価証券売却益				
		その他のサービス活動外収益	10,164,635	9,522,579	642,056	
			サービス活動外収益計	10,164,713	9,522,652	642,061
	費用	支払利息				
		有価証券売却損				
		投資有価証券売却損				
		投資有価証券売却損				
その他のサービス活動外費用		6,772,405	7,101,589	△ 329,184		
		サービス活動外費用計	6,772,405	7,101,589	△ 329,184	
		サービス活動外増減差額	3,392,308	2,421,063	971,245	
経常		増減差額	121,412,673	133,857,941	△ 12,445,268	
特別増減の部	収益	施設整備等補助金収益	2,100,000		2,100,000	
		施設整備等寄附金収益		1,448,790	△ 1,448,790	
		長期運営資金借入金元償還寄附金収益	318,400		318,400	
		固定資産売却益				
		サービス区分間繰入金収益				
			特別収益計	2,418,400	1,448,790	969,610
	費用	基本金繰入額				
		固定資産売却損・処分損	1	112,335	△ 112,334	
		国庫補助金等特別積立金積立額	2,100,000		2,100,000	
		災害拠点区分間繰入金費用	90,884,326	78,118,693	12,765,633	
サービス区分間繰入金費用						
		特別費用計	92,984,327	78,231,028	14,753,299	
		特別増減差額	△ 90,565,927	△ 76,782,238	△ 13,783,689	
当期		活動増減差額	30,846,746	57,075,703	△ 26,228,957	
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額		288,630,304	250,354,601	38,275,703	
	当期末繰越活動増減差額		319,477,050	307,430,304	12,046,746	
	基本金取崩額				0	
	その他の積立金取崩額		5,000,000	18,800,000	△ 13,800,000	
次期		繰越活動増減差額	314,477,050	288,630,304	25,846,746	

3 地域サービス事業取組み状況

指定 管理 事業	<ul style="list-style-type: none"> ①重症心身障害児者短期入所支援事業 ②地域生活サポート人材育成事業 ③専門スタッフ地域巡回支援事業 ④地域交流支援事業 ⑤地域防災拠点事業 ⑥特別援護支援事業 ⑦地域社会参加支援事業 ⑧グループホーム等地域生活移行推進事業
事業 計画	<ul style="list-style-type: none"> ①重症心身障害児者で、厚木精華園の生活介護事業の利用者を対象に短期入所の利用促進を実施する。 ②地域生活を支援する人材(世話人・ボランティア)を育成するため、研修会等を実施する。 ③理学療法士や看護師、相談支援員が事業所を訪問し、医療的ケアの最新情報や支援技術についての情報提供及び機能訓練等を行い、在宅・地域生活を支えていく。 地域の住民、福祉関係職員、家族等を対象に、有資格者の職員を派遣し一次救命救急処置研修会を実施する。 ④地域の住民や在宅障害者を対象にコンサート等を開催し、障害者理解を深め交流を図るに備えた準備を進める。 小中学校等への職員派遣、近隣中学生の職場体験実習、近隣小学生の福祉関連実習受け入れを実施する。 ⑤地域防災の拠点施設として、防災計画の推進を行い、非常食・防災備蓄等を備え、地域住民参加で炊き出し訓練を実施する。 ⑥矯正施設退所者や被虐待障害者等の支援に関する研修、対象者の受入れ体制を整備する。 ⑦障害者に対する理解促進及び共に支えあう地域を構築することを目的として地域の高齢者も対象とし、余暇活動を実施する。 ⑧施設入所利用者対象としたグループホーム等への体験利用、見学等により自己の障害に適応した支援環境の選択肢を提供する。
取 組 み 状 況	<ul style="list-style-type: none"> ①重症心身障害児者の短期入所は、年間延481日を受け入れた。 ②地域生活を支援する世話人人材育成研修を年3回実施した。 ③理学療法士の派遣を近隣施設等に年間14回派遣した。 地域の住民、福祉関係職員等を対象に有資格の職員を派遣し応急手当、気道異物除去心肺蘇生法、AED訓練等を10回実施した。 ④地域住民や在宅障害者を対象にコンサート年間2回実施し339名参加した。障害者理解を深め、交流を図るためにボランティアと利用者交流会を年間2回実施し35名参加した。 ⑤3月6日「5年めの3.11」災害時避難行動訓練を厚木市、認定NPO法人災害時避難行動ネットワーク、地元自治会と協働して福祉避難所の受入れ訓練、応急手当、AED使用方法非常食、備蓄物品の確認、炊き出し等実施し約200名参加した。 ⑥矯正施設退所者の支援についての研修会に3回、矯正施設退所者移行支援ケースカンファレンスに1回出席、矯正施設退所者の受入れ施設の見学を1回実施した。 ⑦近隣住民と共に「お達者クラブ」という余暇活動を、年間4回実施し65名参加した。 ⑧他施設等利用者2名、厚木精華園の利用者1名がホーム体験利用を行った。

*厚木精華園は、地方自治法による指定管理者施設として神奈川県からの指導を受けています。

所管 神奈川県保健福祉局 福祉部障害福祉課
電話 045-210-1111(代表)

平成27年度
社会福祉法人かながわ共同会
厚木精華園 事業概要

平成28年9月発行

発行者 社会福祉法人かながわ共同会 厚木精華園

園長 平嶺 一昭

〒243-0201 厚木市上荻野4835-1

電話 046-291-0780

FAX 046-291-0949

atsugi@kyoudoukai.jp

<http://www.kyoudoukai.jp/atsugi/>



厚木ア&S 知平
 合同共済会が法人認定済
 要職業率 厚木精華園
 百後日と平と知平
 厚木精華園 合同共済会が法人認定済 香川新
 研一 香川新 長岡
 1-3-8 1 厚木市上荻野 1050-2757
 046-291-0780 046-291-0780 046-291-0780
 046-291-0780 046-291-0780 046-291-0780
 社会福祉法人 かながわ共同会

厚木精華園 厚木市上荻野4835-1 電話 046-291-0780